

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	愛知学院大学
設置者名	学校法人 愛知学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	宗教文化学科	夜・通信	0	13	0	13	13	
	歴史学科	夜・通信			0	13	13	
	英語英米文化学科	夜・通信			0	13	13	
	日本文化学科	夜・通信			0	13	13	
	グローバル英語学科	夜・通信			0	13	13	
商学部	商学科	夜・通信		8	6	14	13	
経営学部	経営学科	夜・通信		8	6	14	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		8	6	14	13	
法学部	法律学科	夜・通信		10	4	14	13	
	現代社会法学科	夜・通信			4	14	13	
総合政策学部	総合政策学科	夜・通信		14	0	14	13	
心身科学部	心理学科	夜・通信		4	10	14	13	
	健康科学科	夜・通信		4	10	14	13	
	健康栄養学科	夜・通信		4	10	14	13	

健康科学部	健康科学科	夜・通信		8	6	14	13	
	健康栄養学科	夜・通信		8	6	14	13	
心理学部	心理学科	夜・通信		14	0	14	13	
歯学部	歯学科	夜・通信		0	19	19	19	
薬学部	医療薬学科	夜・通信		4	15	19	19	
(備考)								
心身科学部心理学科：2022 年度より学生募集停止。2021 年度の教育課程に基づき計上。								
心理学部心理学科：2022 年度開設。設置計画に基づき計上。								
心身科学部健康科学科・健康栄養学科：2023 年度に健康科学部へ名称変更。								
2022 年度の教育課程に基づき計上。								
健康科学科健康科学科・健康栄養学科：2023 年度に心身科学部より名称変更。								
設置計画に基づき計上。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.agu.ac.jp/life/payment/#hutankeigen>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	愛知学院大学
設置者名	学校法人 愛知学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

公表方法：ホームページに掲載する。 http://www.aichi-gakuin.jp/officer/index.html
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	学校法人愛知学院 理事長 曹洞宗 宗議会議員	2022/10/26 ～ 2024/10/25	法人業務の総理
非常勤	曹洞宗 宗議会議員	2022/10/26 ～ 2024/10/25	学校法人の運営
非常勤	曹洞宗 宗議会議員	2022/10/26 ～ 2024/10/25	学校法人の運営
非常勤	曹洞宗 宗議会議員	2022/10/26 ～ 2024/10/25	学校法人の運営
非常勤	曹洞宗 宗議会議員	2022/10/26 ～ 2024/10/25	学校法人の運営
非常勤	ジェイアールセントラルビル株式会社 元代表取締役社長	2022/4/1 ～ 2024/3/31	財務
非常勤	弁護士	2022/4/1 ～ 2024/3/31	コンプライアンス
非常勤	株式会社トーエネック 元顧問	2022/4/1 ～ 2024/3/31	教育
非常勤	愛知学院大学学長補佐 特任教授	2022/4/1 ～ 2024/3/31	教育
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	愛知学院大学
設置者名	学校法人 愛知学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
●授業計画の作成過程 シラバス作成にあたり、「シラバス作成マニュアル」および「シラバス作成に関するガイドライン」を全教員にWeb配信し、前年度の1月初旬～2月初旬にかけ、個人別、担当科目ごとに入力を行っている。 その後、2月下旬をめどに、学部（学科）ごとに選任された教員にて「第三者チェック」期間を設け、記入内容不備の修正や訂正、加筆を行い、その内容についての報告書提出を行っている。	
●授業計画の作成・公表方法 各授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等の事項を記載した授業計画を作成し、ポータルサイトにて公開している。	
授業計画書の公表方法	https://wcs.agu.ac.jp/campus/slbbsshjr.do
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
授業計画において、科目ごとの授業の到達目標を示すとともに、試験実施方法及び成績評価方法・基準について明示している。 また、学生が学ぶ意欲を持ち、理解を深められるよう課題のフィードバック方法についても明示し、授業講評などを実施することで学生の成長を促している。 単位認定及び成績評価については、「愛知学院大学の単位認定及び成績評価に関するガイドライン」を策定し、単位数と学修時間、試験の形態、学則第9条に定める成績評価基準等を最上位評価の指針と共に明記している。	
https://www.agu.ac.jp/life/rules/seiseki-guideline.pdf	
以上のことから、本学では適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与えている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 客観的な指標として用いる GPA 算定式を「愛知学院大学 GPA 制度に関する内規」に定め、適切に運用している。 ＜GPA 算定式＞ 学期 GPA については、各学期において評価された成績評価を基に、次の式により算定している（計算値は小数第4位を四捨五入し、小数第3位までを表示）。 「学期 GPA＝（当該学期の履修登録科目の GP×当該科目の単位数）の総和／当該学期の履修登録科目の合計単位数」 総合 GPA については、在学中の全学期に評価された成績評価を基に、次の式により算定している（計算値は小数第4位を四捨五入し、小数第3位までを表示）。 「総合 GPA＝（在学全学期の履修登録科目の GP×当該科目の単位数）の総和／在学全学期の履修登録科目の合計単位数」 また、GPA の活用方法については、「愛知学院大学 GPA 活用に関する要領」を定め、公表している。 https://www.agu.ac.jp/life/rules/gpa2.pdf	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.agu.ac.jp/life/rules/gpa.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ●卒業の認定方針（具体的な内容） 各学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学ホームページ及び履修要項に掲載している。 なお、大学全体のポリシーとしては、以下の5つの能力を挙げている。 ① 多様な価値観をもつ人々と積極的に意思疎通のできるコミュニケーション能力を身につけている。 ② 幅広い教養を身につけている。 ③ 社会の種々の課題を発見し、情報を収集して、論理的に分析・思考し、解決することができる。 ④ 各学部・学科が求める専門分野に関する高度な知識・技能を修得している。 ⑤ 愛知学院大学の建学の精神を修得している。 ●実施状況について 各学部のディプロマ・ポリシーに則り、定められた学修成果を満たし、かつ卒業に必要な単位数を修得した場合に学部教授会、代表教授会での承認を経た後、卒業を認定している。 https://www.agu.ac.jp/guide/data/faculty_certification_criteria.html	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	愛知学院大学
設置者名	学校法人 愛知学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.aichi-gakuin.jp/finance/index.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.aichi-gakuin.jp/finance/index.html
財産目録	http://www.aichi-gakuin.jp/finance/index.html
事業報告書	http://www.aichi-gakuin.jp/finance/index.html
監事による監査報告(書)	http://www.aichi-gakuin.jp/finance/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 学校法人愛知学院 事業計画書 対象年度: 令和5年度)
公表方法: ホームページに掲載。(http://www.aichi-gakuin.jp/finance/index.html)
中長期計画(名称: 学校法人愛知学院中長期計画書 対象年度: 令和2年度より)
公表方法: ホームページに掲載。(http://www.aichi-gakuin.jp/finance/index.html)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.agu.ac.jp/guide/self_assessment/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.agu.ac.jp/guide/accreditation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	文学部（宗教文化学科、歴史学科、英語英米文化学科、日本文化学科、グローバル英語学科）
教育研究上の目的 （公表方法： https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purposel.pdf ）	
（概要）	文学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。
○文学部宗教文化学科	宗教文化学科は、建学の精神である「行学一体・報恩感謝」を体現できる人材、および人類の叡智の所産である世界の宗教を学び、現代社会を生きぬく智慧を有する人材の育成を目的としています。 そのための教育研究上の目的として、宗教学・仏教学・禅学に関する専門的な知識を身につけ、調査・研究・発表のできる教育の推進、宗教の学びを通じて、さまざまな価値観を理解し、グローバルな視野に立って社会に貢献できる能力を養成することを理念としています。
○文学部歴史学科	歴史学科は、さまざまな「歴史」を学ぶことを通じて、自分のいる「社会」のみならず、他者のある「社会」を理解し、自らの社会的な活動に生かすことができる人材の育成を目的としています。 そのための教育研究上の目的として、①「歴史」を通じてグローバルな視野を身につけること、②資料を広く調査・収集し、それらを分析できる力の育成、③そこで得た研究成果をさまざまな形で広く発信することを理念としています。
○文学部英語英米文化学科	英語英米文化学科は、英語圏の人々と対話するのに十分な英語力と自己表現力を備え、また英語圏の文化・社会について幅広い知識を有し、異なる価値観にも共感できる人材の育成を目指しています。 そのため、当学科では、英語の実践的運用能力やコミュニケーション能力を涵養し、同時に英語圏の社会や文化、ものの見方・考え方など異文化に関する広い知識の習得と、グローバル社会において貢献できる能力の涵養を目指します。
○文学部日本文化学科	日本文化学科は、「言語」「文学」「思想と芸術」「社会と民俗」の 4 領域から日本文化について学び、その成果を様々な形で発信できる人材の育成を目的としています。 そのための教育研究上の目的として、①文化探求現場主義をモットーに、現実 に即した情報を収集する能力の養成、②日本文化の学際的研究を通して、学生自らが問題を発見・追究・解決する能力の養成、③日本文化の特質を国際社会に向けて発信できる人材の育成を掲げています。
○文学部グローバル英語学科	グローバル英語学科は、実用的な英語運用能力、豊かな対人コミュニケーション能力、幅広い教養、英語を生かせる職業分野の知識と技能を持ち、グローバル社会に対応することができる人材の育成を目的としています。 そのため教育研究上の目的として、職業分野に応じた知識と技能、実務的な英語運用能力（ESP：English for Specific Purposes）を身につけさせるため、「観光・航空」モデルを擁する「観光コース」、「国際ビジネス」「通訳・翻訳」「英語教員養成」モデルを擁する「英語キャリアコース」の 2 コース 4 モデルを設置し、各専門分野で必要とされる知識・技能・英語力・汎用的能力を養成することを理念としています。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf)

(概要)

文学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○文学部宗教文化学科

愛知学院大学文学部宗教文化学科では、建学の精神を背景に、宗教文化に関する教育と研究を通じて養われた広い視野でグローバル社会に対応し、現代社会を生きぬく智慧と思いやりのある人間性を兼ね備え、社会に貢献できると判定した者に、学位を授与します。具体的には、以下の5つの力を判定します。

① 宗教文化の理解を中心として、人間を取り巻く自然・社会・文化についての幅広い教養を身に付けている。

② 多様な宗教文化への理解と柔軟性のある対応力を備え、様々な価値観や思考法をもつ人々と積極的にコミュニケーションができる。

③ 宗教文化に関する様々な課題を発見し、基礎的な文献を読み解く文献学的研究やフィールドワークにより、自律的かつ創造的に研究できる。

④ 宗教学、仏教学、禅学に関する高度かつ専門的な知識・技能を有し、それを実践に生かすことができる。

⑤ 卒業論文の作成で、選定段階での課題発見力、資料や参考文献の探索を通しての情報収集力、論文執筆の過程での論理的思考や分析力・表現力を修得し、考察・研究の成果を口頭および文書で的確にプレゼンテーションできる。

○文学部歴史学科

愛知学院大学文学部歴史学科では、世界史的視野に立った歴史観を持ち、品格と識見を兼ね備え、自らの意思で行動して、現代社会に貢献できる人材を送り出したいと考えます。

そのため、必要な修業年限を満たし、学科での教育課程の集大成として位置づけ8単位を付与する卒業論文をはじめとして、所定の単位を修得し、かつ本学科が教育上の目的とする以下の5点の力を備えると認めた者に、学位を授与します。

① 文献・資料の分析・活用法の修得：人類が蓄積してきた知識の総体である文献や、古文書等の史料や考古学の遺物・遺構・遺跡といった資料から、情報を探索・収集し、それを適切に取り扱い、正しく解釈して、専門的な歴史研究や展示等に活用できる。またそうした文献や資料の保存に努めることができる。

② 論理的思考の訓練：設定した課題について、多様な学説や資料を検討して自分の考えを論理的にまとめることができる。

③ 現代的問題へのアプローチ：現代社会の諸問題を歴史学の知識や方法を活用して理解し、問題の解決をはかることができる。

④ 世界史的・多元的な視野と人間性の育成：世界史的・多元的な視野により、時間・空間を異とする地域を考察し、人間的共感をもって理解することができる。

⑤ 学術的な卒業論文の作成：①～④の力を総合して、学術的な内容と形式に加え本学科の定める要件を充足した卒業論文を組み立て、叙述できる。提出した卒業論文に関しては口頭試問や発表会等において試験を実施するが、その場において適切なプレゼンテーションを行って、他者に研究の成果を伝えることができる。

○文学部英語英米文化学科

英語英米文化学科では、所定の期間在学し、所定の単位を修得した者に対し、以下の2つの能力を客観的・厳密に評価した上で、学士（文学）の学位を授与します。

① 英語圏の人々と自由にコミュニケーションができる英語運用能力。

② 英語圏の人々の言語・文化的背景を深く理解できる能力。

○文学部日本文化学科

教養教育科目と専門科目を履修することで、広い教養と深い専門知識を修得し、社会の諸側面において自らのなかに課題をみつけ、探求していく姿勢、理論的思考と的確な判断力、社会の変容に対応できる力を身につけた人に学位を授与します。

① 「言語」「文学」「思想と芸術」「社会と民俗」の4領域から日本文化の特質について考究することによって、自らの感性を磨き、文化の継承と創造に寄与し得る能力を養い

ます。

② 学生は所定の期間在籍し、学部学科の教育理念・教育目標に沿って設定した教養科目と専門科目を履修して、卒業要件単位である 128 単位を修得することが求められます。

③ 4 年間の集大成として、卒業論文の作成、提出を学位授与の要件としています。卒業論文の作成に おいては、研究テーマに関連する文献や資料の収集、アンケート調査やインタビュー調査を行います。卒業論文を執筆することを通して、自己表現力や分析力、問題探求能力などを修得します。 具体的には、以下の通りです。

【知識・理解】

- (1) 日本文化・異文化に関して説明することができる。
- (2) 日本社会の諸現象を通時的・共時的に論じることができる。

【汎用的能力】

- (1) 数量的に示された文化的・社会的事象を説明することができる。
- (2) ICT（情報通信技術）を用いて多様な情報から適切な情報を収集し、発信することができる。
- (3) 知識や情報を利用して、問題を解決することができる。

【態度・志向性】

- (1) 自己の権利と義務を適正に行使することができる。
- (2) 社会の発展のために積極的に関与することができる。
- (3) 卒業後も自律・自立して学習することができる。

【総合的な学習経験と創造的思考力】

- (1) これまでに獲得した知識などを活用して、課題を解決することができる。
- (2) これまでの学習体験から、自ら新たな課題を立てることができる。

○文学部グローバル英語学科

グローバル英語学科では、愛知学院大学建学の精神を踏まえ、所定の期間在学し、学科の人材の養成・教育研究上の目的に沿って設定した授業科目を履修、卒業に必要な単位を修得し、さらに卒業研究・論文を作成した者に対し、特に卒業研究・論文の内容、修得した科目の内容、専門ゼミでの取り組み結果等を総合的に勘案し、下記の能力を備えていると判断された場合には、学位が授与されます。

① 英語力 グローバル社会で求められる英語でのコミュニケーション能力。グローバル人材として活躍し得る 実践的で実用的な英語力。

② 異文化理解力 グローバル社会で求められる多様な文化、価値観に対する理解と思いやりを示し、多文化共生に 貢献し得る能力。グローバル市民としての視点を持ち、多様性を尊重しながらグローバルレベルの 諸問題に取り組むことが出来る能力。

③ グローバルキャリア基礎力 グローバル社会の発展に貢献するために、英語力を生かして活躍することが出来る職業分野の基礎 知識、基本的な技能を有すること。また、その分野で必要とされる英語表現の知識など、分野に特化 した英語力を有すること。

④ 汎用的技能と創造的思考力 グローバル社会における課題を自ら発見し、これまでに獲得した知識、技能等を総合的に活用し、自己を律して他者と協働し、原因追及、情報収集、情報分析、計画立案、計画実行などの課題解決 に求められる行動を主体的に行う能力。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2023_01.pdf)

(概要)

文学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○文学部宗教文化学科

宗教文化学科では、ディプロマポリシーに掲げた目標を達成するために、以下のような教育内容・方法・評価を行います。

【教育内容】

① 宗教学・仏教学・禅学の 3 つの専門分野の学びを通し、本学の建学理念である「行学一体・報恩感謝」を具現化し、豊かな人間性を涵養する。

② 1 年次の「基礎セミナーI」で、学生は「読む・書く・話す・聞く」といった大学教育

に必要な基礎的能力を身につける。

③ 2年次の「基礎セミナーII」で、学生はキャリア形成に必要なスキルを身につけ、大学で学ぶ意義と社会人として働く意義を明確に理解する。

④ 「地域宗教文化I—II」で、学外でのフィールドワークを実施する。学生は自発的に問題を発見し、仲間と協働して行動する力を身につけ、学外の社会とつながる経験をする。

⑤ 「教養教育科目」と連携することにより、学生は専門知識を補完する幅広い教養を身につける。

⑥ 3年次以降の演習科目（ゼミナール）で、宗教学・仏教学・禅学の各分野の専門的な学びを深め、学位取得に必要な知識や技能を身につける。

【教育方法】

① アクティブラーニングを取り入れ、学生による主体的・能動的な学修を奨励する。

② 学生の「個人カルテ」を作成し、学科の専任教員全員が、学生の現状把握と学修意欲の促進に努める。

③ 主体的な学修活動を促すため、学生による各授業の「振り返り」と半期ごとの教育成果の「振り返り」を実施する。また、定期的に授業プログラムの「振り返り」をおこなう。

【教育評価】

各科目の到達目標に応じた学修成果を多面的に評価する。演習科目では、グループディスカッションやプレゼンテーションにより、能動的な学修態度を高く評価する。

○文学部歴史学科

愛知学院大学文学部歴史学科では卒業認定と学位授与の方針（DP）に掲げた目標達成のために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。

【教育内容】

① 1年次の教育として、基礎教養を修得するために「教養教育科目」「教養基幹科目」「外国語科目」を開講します。また学科の専門教育科目として日本史・東洋史・西洋史・イスラム圏史・考古学の5つのコースの概説と専門選択科目を開講します。

② 2年次から5コース制のもと少人数ゼミに分かれ、各コースにおける文献・資料の分析・活用法を修得するための「専門一般科目」として基礎講読を開講します。また歴史学の基礎を修得するための「専門基礎科目」として史学概論・考古学概論を開講します。また多元的・世界史的視野を修得するために選択科目を開講します。

③ 3年次は各コースの専門的内容を修得するために専門講読を開講し、学生のアクティブ・ラーニングを重視した教育を行うために基礎演習を開講します。多元的・世界史的視野の修得を継続するために東西交渉史と国際関係史を開講します。また歴史学の専門的内容を修得するために特殊研究を開講します。

④ 4年次は各コースで修得した専門性をプレゼンテーションするための専門演習を開講します。そして4年間の学修の集大成としての学術的な卒業論文を作成します。

【教育方法】

① 学生は2年次からコース・少人数ゼミに所属し、発表やディスカッションなどの学生主体のアクティブ・ラーニングをとおして歴史研究を実践します。

② ゼミにおいて資料所蔵機関などで実習やフィールドワークを行います。

③ 考古学コースでは夏休み期間に2週間の発掘実習を実施し、考古学の基礎的技能を修得します。

④ 専門的な知識・技能の取得をめざす学生には博物館学芸員の養成課程を設置しています。

⑤ ゼミでは、発表やディスカッション、レポート提出などを通して、卒業論文で専門的に取り組むべきテーマが明確になるようにし、教員の個別指導も交えて、学術的な卒業論文を作成し所定の期間に提出するように指導します。

【教育評価】

① 教育目標に応じた学修成果については、定期試験のみならず多様な試験により多面的に評価します。学期末に行う試験やレポート課題だけでなく、授業内での小課題やリアクションペーパーなどで理解度や達成度を評価します。

② ゼミにおいては、発表やレポートにより到達度を学生本人が確認できるようにしま

す。

③ 集大成としての卒業論文については、卒業論文ルーブリックおよび口頭試問や発表会等において、その完成度を評価します。

○文学部英語英米文化学科

英語英米文化学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。

【教育内容】

- ① 1年次から2年次の教養教育科目を通じて幅広い教養を身につけます。
- ② 1年次から3年次の英語基礎科目では、英語の基礎力拡充と応用力強化を目指します。「Oral CommunicationIa・b」、「Oral CommunicationIIa・b」、「ReadingIa・b」、「ReadingIIa・b」、「WritingIa・b」、「WritingIIa・b」では、英語4技能5領域—聞く、話す（やりとり）、話す（発表）、読む、書く—の育成を行います。「English for TOEICIa・b」、「English for TOEICIIa・b」では、徹底した演習を通してTOEICスコアを向上させます。
- ③ 1年次から3年次の英語基礎科目「Culture through EnglishIa・b」、「Culture through EnglishIIa・b」、「Japanese Culture through English a・b」では、外国人教員の指導の下、英語で英語圏や自国の文化を理解し、英語で発信できる力を養います。
- ④ 1年次から3年次の英語発展科目では、英語を通じて英語圏の文化を楽しく学ぶ「English through Movies」、ICTを活用して海外の人々と英語でコミュニケーションを行う「Online Communication in English」、外国人教員と日本国内で英語だけで生活し、さまざまなアクティビティを行う「English Camp」など、学科の特色を生かした多様な科目で英語力と異文化理解力のさらなる向上を目指します。
- ⑤ 2年次から始まる専門専攻科目では、身につけた英語力を活用しながら、「英語研究」、「アメリカ文化」、「イギリス文化」、「英語圏文化」の4領域について、幅広い専門的知識を習得し、異文化への理解を深めます。また、「Study TourI～III」では、アメリカ、イギリス、英語圏を訪れ、異文化コミュニケーションを実体験します。
- ⑥ 1年次から始まる演習科目では、アカデミック・スキルを修得し、自ら選んだ研究テーマを主体的に探求する中で、批判的読解力、論理的思考力、創造的表現力を涵養します。

【教育方法】

- ① 英語科目（英語基礎科目および英語発展科目）では、グループ・ワークやプレゼンテーションなど、さまざまなアクティブ・ラーニングを積極的に導入し、学生が主体的かつ能動的に取り組み、他者と協働しながら学ぶ授業を行います。
- ② 1年次および2年次の春学期・秋学期にTOEIC受験を義務づけ、英語力向上の指針として活用します。具体的には、1年次は450点、2年次は550点、卒業時には730点以上を目標とします。
- ③ 専門専攻科目では、日本語・英語で書かれた文献や視覚資料を多用した講義に加え、学生が主体的・能動的に取り組めるプロジェクト型授業を行います。
- ④ 演習科目では、自ら選んだテーマについて主体的に調査研究し、研究内容に基づくプレゼンテーションやディスカッションを行いながら、卒業論文の執筆を進めます。

【教育評価】

- ① 英語科目については、到達目標に応じた学習成果を評価するために、定期試験、レポート、小テスト、インタビュー、英語外部試験などの方法を用います。
- ② 専門専攻科目では、定期試験、レポート、小テストなどの方法を用います。
- ③ 卒業論文の評価には、口頭試問に加え、10段階評価のルーブリックを用います。

○文学部日本文化学科

日本文化学科では、卒業認定・学位授与の方針（DP）に掲げた「文化探究現場主義」をモットーとして、教養教育科目と専門科目の連携を図りながら、以下の教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。

【教育内容】

- ① 日本文化の総合的理解を目指して、「言語」・「文学」・「思想と芸術」・「社会と民族」の4つの領域をもうけています。これら4つの領域ではそれぞれに、入門的な内容を

扱うことで1年次から履修可能な1群の授業、発展的な内容を扱うことで2年次から履修可能な2群の授業、特に少人数で行われる専門性の高いゼミ科目を中心とすることで3年次から履修可能な3群の授業を配置して、入門的な内容から専門性の高い科目まで、学生が無理なく各学問領域を理解できるようにカリキュラムを構成しています。このようなカリキュラムによって、日本文化学科では学生が自ら学び、課題を見つけ、それを探求するとともに、その成果をまとめる力を養成します。

② 1年次と2年次は、4つの領域の中の1群と2群の授業を領域横断的に履修することで、日本文化の基礎を総合的に学習するとともに、3年次から専門的な学習・研究を行うために所属するゼミ選択の準備を行います。3年次と4年次は原則として同じゼミに所属し、同一の指導教員のもとで各領域における専門的な学習・研究を行い、4年次の最後には4年間の学習の集大成としての卒業論文の作成に取り組みます。こうした4年間の教育を通して、日本文化学科では日本文化の諸領域のなかに自ら課題を立て、それを解決できる能力を養成します。

③ 書道文化に関する講義・実習科目を充実させ、学生の希望に応じて、かな、楷書、隸書、草書、篆刻などの様々な書法を修得するとともに、書道教員免許の取得を可能とする体制を整えています。また、日本語・日本文学に関する講義科目を充実させ、国語教員免許の取得を可能とするカリキュラムを設定しています。

【教育方法】

① 日本文化学科のモットーである文化探究現場主義に基づき、1年次には美術館や文化施設の見学、陶芸体験、そば打ち体験、雅印や香袋の作成などの体験プログラムを用意して、日本文化を実際に体験する機会を提供します。2年次には広領域特講群を活用し、茶華道、日本画の基礎の実修、ふろしきの使用法等、実践的な形で日本文化の理解を進めます。また、書道文化に関しては、基礎から応用まで、学生の希望に応じて実践的な授業を通してその技能の向上につとめます。

② 1年次より履修可能な各分野の講義では、教員による講義形態を中心にすえながらも、少人数のグループワークの活用や、学生からの質疑応答の活性化、画像や映像を利用しながら、それに対する意見の聴取などを取り入れることで、積極的なアクティブラーニングを活用し、学生の参加による双方向授業の実施と、学生の自発的な学習を促します。

③ 3年次からは専門性の高いゼミに所属し、少人数による授業を行います。その中では、学生相互の活発な議論を促したり、レポーターによる発表とそれに対する批評を行う一方で、個々の学生の作成したレポートに対するきめ細かな指導を専門の教員が行うことで、卒業論文のテーマの決定と、それを作成するための能力の養成をはかります。4年次には、その集大成として卒業論文を作成します。各ゼミの教員は、卒業論文の作成の進度に応じて個々の学生に対する個別指導を行うとともに、すべてのゼミ生が参加した形での卒業論文の中間発表等を行います。

④ ゼミの研究領域に応じて、国内外における文化的諸事象の体験・調査などからなるフィールド・ワークやアンケート調査を実施します。アンケート調査によって得られたデータは統計解析ソフトを用いて分析します。そして、その結果に基づいて各ゼミで積極的な議論を行い、ゼミ生全員がそれぞれの形で日本文化の理解を深めます。

【教育評価】

① 日本文化を理解するために必要な知識に関しては、これを修得したかどうかを筆記試験を通してはかり、評価を行います。

② 文化的諸事象の体験や調査などアクティブラーニング系の科目に関しては、レポートや討論を通して教員が客観的に評価を行います。

③ 4年間の集大成として卒業論文を提出し、主査と副査の口述試験を通して評価を行います。

○文学部グローバル英語学科

グローバル英語学科は、卒業判定・学位授与の方針（DP）に掲げた目標を達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。

【教育内容】

① 「教養教育科目」で、学生は大学教育を受けるために必要な基本的なアカデミックス

キルおよび様々な学問分野に関する幅広い教養を身につけます。

② 英語技能科目で、実用的かつ専門的な国際コミュニケーション・ツールとしての英語運用能力を身につけます。

③ 英語技能科目および専門科目で、幅広い国際的教養や高度な専門的知識を持ち、国際的視野 に立って何事にも対処しうる思考能力を身につけます。

④ 産学連携プログラムや地域連携プログラムへの参加を通じて、国際社会に貢献する「ホスピタリティ（おもてなしの心）」を涵養します。【学年ごとのカリキュラム内容】1 年次は、「教養教育科目」と連携することにより、学生は専門知識を補完する幅広い教養を身につけます。専門教育科目においては、英語母語話者の英語に積極的に触れる機会を多く設け、英語の「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」の 4 技能を養う科目を中心に学習します。これに加えて TOEIC や TOEFL などの英語の資格取得のための科目で、将来の就職活動や留学のための準備を始めます。英語学習と平行して、「国際ビジネス」「観光・航空」「通訳・翻訳」「英語教育」の 4 つの分野の入門・基礎科目を受講し、各分野の基礎知識を身につけると共にキャリア意識を醸成します。この他、異文化理解入門で異文化理解の基礎的な能力を養成し、基礎ゼミでレポートや論文の書き方を学びます。2 年次も引き続き「教養教育科目」との連携により、幅広い教養を身につけます。「専門教育科目」では、英語の 4 つのスキル科目に加えて、英文法で基礎力を底上げします。また、英語で学ぶ北米、イギリス、オセアニア、日本の文化事情科目で更に異文化理解力を高めます。2 年次の夏季休暇中に、必修科目として海外研修を実施し、ホームステイや異文化体験を通じて英語力の向上を図ります。現地でのアクティブ・ラーニング・プログラムに積極的に関わることによって入学時からの英語学習を振り返り、今後の英語学習の一層の動機づけと方向づけにつなげます。英語・異文化の学習に加えて、1 年次から継続して 4 つの専門分野の入門・基礎科目を受講して視野を広げ、将来の目標を見定めます。3 年次では、「観光・航空」に特化した「観光コース」と「国際ビジネス」「通訳・翻訳」「英語教育資格」を擁する「英語キャリアコース」の 2 コースに分かれて、学生が希望するコース別に専門科目を履修し、より専門的な知識とスキルの獲得と、各分野に特化した英語力向上を図ります。更に専門ゼミ I を配し、各自が希望する分野についてより深く学び、卒業論文・卒業研究のために必要な知識、技能を習得します。4 年次では、卒業研究・論文作成のために求められる英語技能科目、専門ゼミ II、卒業研究・論文の指導等を通じて、4 年間の集大成を図ります。特に卒業研究・論文の作成を通して問題探求力、分析力、表現力の習得を図ります。

【教育方法】

① 学習面・学生生活全般へのサポート 教養部のアドバイザーとの連携のもと、学科の専任教員全員が学生の学習面および学生生活全般についてサポート し、学修意欲の促進に努めます。特に 1 年次の基礎ゼミ担当教員が学生一人ひとりと面談を行い学生の現状を把握 し、学科教員間で情報を共有します。2 年次は学科のアドバイザーである Study Abroad 担当教員が、3・4 年次はゼミ 教員がサポートを継続します。

② TOEIC の活用 本学科では、1 年次と 2 年次に TOEIC 受験を義務付けるなど、学外の英語外部試験を積極的に活用します。TOEIC の平均取得スコアの向上を学科の目標として英語力の向上を図ります。段階的な目標として、1 年次は 450 点、2 年次 は 550 点、3 年次の終わりには 730 点以上を設定しています。（1 年次は入学時の 10%、2 年次は 20%、3 年次の終わり には 30%以上のスコアの向上を目指します。）

③ 多様な授業形態 授業形態は授業目標や内容により多様であるが、アクティブ・ラーニングを取り入れ、学生が可能な限り積極的に授業に取り組めるようにします。主体的・能動的な学修を促す教育方法を実施し、学生に学修成果の「振り返り」を奨励 します。ピア・サポート体制などを活用した学生の自発的な学修環境の充実に努めます。自ら問題を発見し、他者と 協働して行動できるよう、学外の体験学修を推奨します。

【教育評価】

到達目標に応じた学修成果を多面的に評価します。定期試験、レポート、ルーブリック評価、小テスト等の直接的な方法、段階的な英語力評価、授業の発表、学習行動調査等の間接的な方法、あるいは問題解決型演習等による成果物の評価、さらには学習履歴の記録、

振り返り、学習デザイン、国家試験取得等の多面的な評価を奨励します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission2023_01.pdf)

(概要)

文学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学 HP 及び入試要項に掲載している。

また、学力と意欲の点で優れた人をできるだけ幅広く募り、公平かつ多様な方法で選抜するという方針に基づき、「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「特別入試」を実施している。

特に総合型選抜に高大接続型入試を導入し、高校における学習歴や学習意欲、目的意識を総合的に評価し大学の学びとのマッチングを重要視している。

○文学部宗教文化学科

宗教文化学科では、愛知学院大学のアドミッション・ポリシーにもとづき、宗教文化を学問的に研究することで、人類の遺産である宗教の歴史・文化・世界観を学び、同時に現代人が直面している諸問題に取り組む智慧と主体性を探求する入学者を選抜します。

① ひろく世界の宗教文化を学び、多様な価値観・世界観があることを理解し、多様な人々と共生し協働しようとする人。

② 建学の精神を身につけ、宗教者として地域や社会に貢献したい人。

③ 将来、自らの職業や活動を通じ人々と交流し、社会に貢献したい人。

④ 以上の学びを可能にするための基礎学力、とくに日本語読解力、表現力を備えて、積極的に学ぼうとする意欲のある人を、多様な入試種別を設けて、それぞれの入試ごとに選抜する。

(1) 一般選抜：国語・英語・社会などの基礎学力がある人を求め、宗教文化を学ぶ意欲と適性を試験 によって判定する。

(2) A0 入試：宗教文化を学ぶ明確な意思をもつ人を求め、学業以外の顕著な実績、資格を将来の 学修につなげる意欲と創造力を、面接試験と書類審査によって総合的に判定する。

(3) 公募制推薦入試 A：高等学校で学ぶべき基礎学力を習得した人を求め、課題文設問型の試験に よって、日本語読解力と表現力を、国語・英語の適性検査によって学修の前提となる思考力・判断 力・表現力を判定する。

(4) 公募制推薦入試 B：国語・英語の適性検査によって、学修の前提となる思考力・判断力・表現力を 判定する。

○文学部歴史学科

歴史学科が愛知学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、かつ歴史学科の教育上の目的にそって求めるのは以下のような人です。第一に、歴史を学問的に研究すること、すなわち文献や資料を収集・整理し、歴史学的手法により分析し、論理的に解釈することを通して、歴史の実態や本質を明らかにすることに学力・適性のある学生です。第二に、現代社会の諸問題について幅広い関心を持ち、歴史学的手法を駆使してそれらを理解し解決をめざすことに意欲のある学生です。歴史学の修学・研究に関しては、意欲・知識・言語能力・思考力・コミュニケーション力など多様な力が必要であることから、以下のような多様な入試区分を設け、入学者を選抜します。

① 一般選抜では、資料・文献の読解や論文叙述に必要な言語能力および大学で学ぶ歴史学の基礎となる知識、人文科学において必要な論理的な思考力を有する学生を求めます。

② A0 入試では、歴史学の修学に必要な論理的思考力や歴史を学ぼうとする意欲を有する学生を求めます。

③ 公募制推薦入試では、高等学校等で学ぶべき基礎学力、論理的思考力や言語能力など歴史学の 修学に必要な基礎力を有する学生を求めます。

○文学部英語英米文化学科

英語英米文化学科では、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な、以下に掲げる意欲、資質、能力を身につけた人物を求めます。

① 世界共通語である英語の運用能力（実用英語検定準２級以上が望ましい）を備え、さらに高めることに意欲的な人。

② 英語、国語、社会などの基礎的な学力があり、英語圏諸国の文化事情を積極的に学ぶことに意欲的な人。 また、最新の社会情勢に関心を持ち、その理解に努める人。

③ 将来、本学科で身につけた専門的知識や能力を仕事や生活などのさまざまな機会に活かし、社会に貢献 することに意欲的な人。

○文学部日本文化学科

日本文化学科では、「言語」「文学」「思想と芸術」「社会と民俗」の４つの領域から、多角的に日本文化について考え、学ぶ意欲のある学生の入学を期待しています。 また、日本文化学科では、卒業認定・学位授与の方針（DP）及び教育課程編成・実施の方針（CP）に定める教育を受けるのにふさわしい、以下にあげる学生を求めます。

① 高等学校での各教科、特に国語・社会・英語についての基礎学力を有し、大学で発展的内容を学ぶ 意志のある学生を求めます。

② 正確な日本語の読み書きの基礎力をもつ学生が望ましいと考えます。一例として、漢字検定準２級 程度の学力を有する学生を求めます。

③ 他者の話の要点を捉えてメモし、考察の材料にできる能力は、大学の講義を受ける上で必須です。 さらに、身の回りの文化や現象 に、「なぜ？」「どうして？」という自分なりの疑問をもち、答えを探ろうと する姿勢をもつ学生を求めます。

○文学部グローバル英語学科

グローバル英語学科では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容を踏まえ、以下の人材の入学を求めます。そのために当学科では、大学が実施する各種入試の特徴を踏まえて、試験成績、願書情報等を考慮の上、求める人材の選別に努めます。

① グローバル社会が求める英語運用能力を備え、円滑で豊かなコミュニケーション能力を身につけ ようという意欲や向上心を持っている人。学科カリキュラムに鑑み、入学時は各人が実用英語検定 準２級以上取得あるいは同等の英語力を有していることが望ましい。

② グローバル社会における多文化や異文化に関する知識、ホスピタリティ（思いやり力）、情報収集力、 論理的思考力、問題解決力などの「汎用的能力」を身につけたい人。

③ グローバル社会における倫理観、自己管理力、グローバル市民としての社会的責任等を主体的に 協働して学ぶ意欲と熱意を持っている人。

学部等名 商学部商学科

教育研究上の目的

（公表方法：<https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf>）

（概要）

商学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○商学部商学科

商学部は建学の精神である「行学一体・報恩感謝」を体現するため、**1953**年にマザーズスクールとして誕生しました。そして経済活動を中心とする社会生活を他者へ思いやりを持って営むことができる人間教育を究極の人材養成の目的としています。

以上の考えを元に、**2005**年度から新たに「ビジネス・ヒューマン・バリュー **Business Human Value**」の創造を教育目標として掲げました。こうした教育研究上の目的を持つ「商学」は、ビジネスに関わる分野の総称です。この総称は従来型のビジネスマンではなく、ビジネスヒューマンとして正邪の判断を自らに課した上で、他者への思いやりや自然との共生、そして真の優しさに満ちた「人間としての価値」を高めることに尽力してきました。

こうした商学部の考えから、2007 年度からは、商学部の英語名称も時代の変化に呼応する形で、「Faculty of Commerce」から「Faculty of Business and Commerce」に改めました。商学部は、こうして建学の精神である「行学一体・報恩感謝」を脈々と次の世代へ引き継いでおります。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf)

(概要)

商学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○商学部商学科

愛知学院大学商学部は、下記のような人材の育成を目指しています。

- ① 本学建学の精神である「行学一体」、「報恩感謝」を深く理解し、高い倫理観と豊かな人間性をもつ人。
- ② ビジネスに関する専門的能力を身につけることによって、ビジネスの現場をはじめとする協働の場において様々な問題解決を図り、社会に対して主体的に貢献する人。したがって、下記の条件を満たす者に学士（商学）を授与する方針です。
 - (1) ビジネスの現場において必要不可欠とされる広範な知識や技能を修得している。
 - (2) 流通、マーケティング、国際ビジネス、会計、金融、情報通信技術、ビジネスと情報との関わりといった、各人の専門領域における深い知識や優れた技能を身につけている。
 - (3) 修得した専門的な知識や技能を用いて、ビジネスの現場において自ら問題を発見し、それを解決することができる。
 - (4) ビジネスの現場における問題解決に必要なコミュニケーション能力を身につけている。
 - (5) 専門的な知識や技能のみならず、幅広い教養を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2023_01.pdf)

(概要)

商学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○商学部商学科

愛知学院大学商学部は、本学、および本学部の「卒業認定・学位授与の方針」（DP）を踏まえ、専門教育課程・教養課程について以下のような方針を掲げます。

【教育内容】

- ① 「専門教育科目」では、専門領域の如何にかかわらず、ビジネスの現場において必要不可欠とされる知識や技能を修得するための「基礎科目」を設ける。
- ② 各人が自らの専門領域における知識や技能を効率的、かつ効果的に身につけられるように、「流通・マーケティング」、「会計・金融」、「ビジネス情報」の3つのコースを設定する。また、各コースでは、当該専門領域における基礎的な内容を修得するための「基幹科目」、およびより専門的で高度な内容を修得する「応用科目」を設定する。
- ③ ビジネスを「頭で理解する」だけでなく、ビジネスの現場における主体的な問題発見、および問題解決の能力を身につけるために、「演習科目」を設定する。
- ④ 「教養教育科目」では、「宗教学」をはじめとした、幅広い知識を修得するための、多彩な科目を設ける。
- ⑤ 「キャリア教育科目」では、進路に対するモチベーションの向上や職業的知識の修得のため、関連する科目を設ける。

【教育方法】

- ① 同一科目を複数教員で担当する場合、担当教員間で協働し、授業内容や方法について調整する。
- ② 専門教育科目において、関連性の高い科目間で、授業内容や方法について調整する。

③ 専門外国語科目および情報リテラシー科目において、習熟度別クラス編成をとり入れる。 ④ 演習科目において、学生の問題発見・課題解決能力の養成を目指して、アクティブ・ラーニングを展開する。 ⑤ SA 制度を活用して、ビジネス情報に関連する科目を中心に、多くの科目で学習支援を実施する。 ⑥ 一定の資格取得者に対し、上級学年設置の上級科目履修が可能な措置を講じる。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission2023_01.pdf)
(概要) 商学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学 HP 及び入試要項に掲載している。 ○商学部商学科 愛知学院大学商学部は、本学、および本学部の「卒業認定・学位授与の方針」(DP)と「教育課程編成・実施の方針」(CP)に定める教育を受けるために必要な、以下のような目的意識や意欲、資質、能力を身につけた人物を求めます。 ① 高等学校等の教育課程において、国語・数学・理科・社会・英語を学習し、商学を学ぶための基礎的な 学力を有している人。 ② ビジネスに関する各領域(流通、マーケティング、国際ビジネス、会計、金融、情報通信技術、ビジネス と情報との関わり)等の専門分野に興味・関心がある人。 ③ ビジネスに関する専門分野を学び、積極的に自分なりの問題意識を持ち社会における問題点を明確にし、その解決方法を考えられる人。 ④ 将来はビジネスについて専門的な知識や技能をもって、社会に貢献したいと考えている人。

学部等名 経営学部経営学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf)
(概要) 経営学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○経営学部経営学科 地球規模での競争の激化、地球環境問題の深刻化、情報化の進展など、企業を取り巻く環境はかつてないほどのスピードと規模で変化しています。経営学部では、このような環境変化に対応するために、建学の精神である「行学一体、報恩感謝」に加え、経営学部の教育理念である「理論と実践」のもと新しい理論に基づく実践を重視し、企業経営を通じて社会に役立ち、自己実現できる人材の育成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、 ①新しいマネジメント理論と実践を踏まえた教育研究、 ②産学連携による実践型の教育研究、 ③実習方式を積極的に取り入れた実践型の教育、 ④1 つの専門領域に偏らない学際的な知識・技術をもった人材の育成に寄与する教育研究、 ⑤変化革新への対応能力や問題発見解決能力の向上を促す教育研究としています。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf)

(概要) 経営学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○経営学部経営学科 経営学部では、「組織マネジメントコース」、「生産マーケティングコース」、「会計コース」の3つから、学生が選択した履修コースにおける理論と実践についての主体的な学びを通して、以下に挙げる知識・技能をどう育んだかを適切に評価して、学位を授与します。 (すべての学生に求められる能力) ① 情報に対する高い感度と異文化への深い理解をもって、多様な価値観を持つ人々と積極的に意思疎通のできるコミュニケーション能力。 ② 社会の種々の課題を発見し、関連する情報の収集・分析・思考を通じて、解決を模索できる知識・技能。 (組織マネジメントコースを履修した学生に求められる能力) ① 組織、マネジメントに関する諸問題を把握・分析し、解決方法を見出すことのできる知識・技能。 ② 将来経営者または管理者になった際に求められる、必要な経営資源を適切に管理できる知識・技能。 (生産マーケティングコースを履修した学生に求められる能力) ① 開発、生産、物流、販売に関する諸問題を把握・分析し、解決方法を見出すことのできる知識・技能。 ② 自ら新たな事業を企画し運営できる知識・技能。 (会計コースを履修した学生に求められる能力) ① 会計に関する諸問題を把握・分析し、解決方法を見出すことのできる知識・技能。 ② 会計関連の資格取得等を通じ、社会に貢献できる知識・技能。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2023_01.pdf)
(概要) 経営学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び入試要項に掲載している。 ○経営学部経営学科 多様化する社会の中で個性が問われる現代では、豊かで鋭い感性、柔軟な思考力、挑戦できる創造力を持った人材が求められています。経営学部では、幅広い教養と専門知識について、主体的に基礎から応用、発展へと段階的に学ぶと同時に、社会との関わりを重視した実践的な学びができるよう、下記のカリキュラムに基づいた授業を実施し、教育評価を行います。 【教育内容】 経営学を初めて学ぶ人が、経営学に関する多様な科目を自主的に選択することは難しいことから、系統的に体系だった学習ができるように、経営学部では下記に配慮し、カリキュラムを設定しています。 ① 幅広く多様な専門科目を配し、それらを「基礎科目」と「応用科目」に分けています。 ② バリエーションに富んだ「応用科目」を体系的に選択できるように、「組織マネジメントコース」、「生産マーケティングコース」、「会計コース」という3つの履修コースを用意しています。 ③ マネジメント能力の実践的側面の強化を目的とし、「実習科目」を設置しています。また、「応用科目」においても理論の実践に主眼を置いた科目を設置しています。それらの科目では、外部から企業経営者を講師として招くなどして、現場からの発想にもとづいた生きた経営学を学ぶことができます。 ④ 資料や情報を集め、それらを整理・分析し、報告するなどの経営学の基礎的な力を身につけるための「基礎演習科目」と、専門分野を中心に少人数で議論したり知識を発展さ

せたりすることのできる「専門演習科目」を配置して います。

⑤ グローバルな世界で活躍するためには英語が必須であることから、英語習得のための科目「ビジネス英語」を配置 しています。

⑥ 将来のキャリア開発を支援するため、キャリア支援科目を配置しています。

⑦ 上記に加えて、地域連携センターが提供する「地域連携科目」を受講することで、将来のコミュニティ・リーダーに 求められる能力を磨くこともできます。

【3つの履修コースの概要】

1. 組織マネジメントコース 「組織マネジメントコース」では、主に次の4つの点について学んでいきます。

① 組織を作り上げ、それらを調整し、動かす仕組みや方法について理解を深めます。

② 組織内外における人びとの関係づくりと、組織においてヒトが成長していくにつれて生じる役割の変化と管理 について学びます。

③ 組織を取り巻く環境の変化に対し、現実組織をどのようにマネジメントし成果を上げていくかについて、 実践的 な理解力を身に付けます。

④ 環境問題や技術革新、企業倫理のような現代的課題を取り上げ、そこで組織が成果をあげるためのマネジメント について学びます。

2. 生産マーケティングコース 「生産マーケティングコース」では、企業の内部・外部におけるモノの流れにしたがって企業経営のメカニズムを学びます。

① 開発・生産・物流・販売というモノの流れを、体系的に学びます。

② 経済のグローバル化に対応した国際的な企業経営のあり方を学びます。

③ 新たな市場の可能性を拓く新事業の企画・運営の方法を学びます。

3. 会計コース 社会ではいかなる活動を行うにも資金が必要となります。資金を適切に管理できなければ、その活動実体を存続させることは不可能です。資金の適切な管理に関する様々な知識や技法を習得するため、「会計コース」では以下の3点をステップ・アップ方式で学習を進めていきます。

① 資金の調達・運用とその結果の計算・記録方法を学びます。

② 記録されたデータから財務情報を作成・表示する方法を学びます。

【教育方法】

1. 「すべての学生に求められる能力」に関する教育方法

① ディプロマ・ポリシーに掲げた「すべての学生に求められる能力」のうち、特に①を会得するには、経営に関する 多様な知見が必要となります。そのため、専門基礎科目については、所属するコースにかかわらず、幅広く履修 することを学生に求めています。

② ディプロマ・ポリシーに掲げた「すべての学生に求められる能力」のうち、特に②を会得するには、理論の実践体験 を多く持つことが必要となります。そのため、理論の実践を目的とした講義科目、演習科目および実習科目の履修 を学生に求めています。

2. 各科目群に関する教育方法

① 経営の理論に関する講義は座学形式で行います。

② 経営学への導入ならびに理論から実践への橋渡しとして、ビジネスゲームを活用します（ビジネスゲーム実習）。

③ ICT 利活用のための技能習得を伴う応用科目または実習では、受講者数を限定し、教員の目が各受講生に行き 届くよう配慮します。

④ 理論の実践への応用に重点を置く応用科目や演習科目では、受講者が能動的に取り組めるよう示唆を与え、受講生による議論や発表の場を提供するよう努めます。

⑤ 専門英語の習得のため、TOEIC のスコア向上に焦点を当てた座学形式の講義（ビジネス英語）と、生きたコミュニケーション能力の養成に焦点を当てたネイティブによる対話型の講義（国際コミュニケーション）を併用します。

⑥ キャリア開発に対する意識づけのため、キャリア支援科目（キャリア・デザイン）は、1～3年次の各学年において 原則として全員が履修します。

⑦ 地域連携科目や外部の経営者や企業人を講師として招聘して行う応用科目や実習科目では、担当教員と 外部講師の緊密な連携を図り、講義内容を検討していきます。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission2023_01.pdf)
(概要) 経営学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学 HP 及び入試要項に掲載している。 また、学力と意欲の点で優れた人をできるだけ幅広く募り、公平かつ多様な方法で選抜するという方針に基づき、「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「特別入試」を実施している。 特に総合型選抜に高大接続型入試を導入し、高校における学習歴や学習意欲、目的意識を総合的に評価し大学の学びとのマッチングを重要視している。 ○経営学部経営学科 地球規模での競争の激化、情報化の進展、地球環境問題の深刻化など、社会を取り巻く環境はかつてないほどのスピードと規模で変化しています。経営学部では、企業を取り巻くこのような環境変化に対応する人材を育成するため、大学の建学の精神である「行学一体」、「報恩感謝」のもとに、下記のような能力・関心を持った人を受け入れたいと考えています。 ① 高等学校等の教育課程における基礎的な知識・技能と、 それに基づく 思考力・判断力・表現力を 身に付けている人。 ② 現代の企業が直面する諸問題に対して興味を持ち、「ヒト（人事・労務）・モノ（生産）・カネ（会計・財務）・情報」といった経営資源を有効に活用する「知識」を身につけ、企業を効率的に運営するための「思考力」を養いたいと考えている人。 ③ 主体性をもって多様な人々と協働できる能力を身に付け、リーダーシップを発揮できる人間になりたいと望んでいる人。 ④ 将来、会計に関する資格（日商簿記、税理士、公認会計士）、金融に関する資格（ファイナンシャル プランナー、証券アナリスト）、情報処理に関する資格（情報処理技術者）等を取得し、専門的知識を活かして社会に貢献したいと考えている人。

学部等名 経済学部経済学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf)
(概要) 経済学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○経済学部経済学科 経済学部は、社会の要請に応じて具体的に次のような社会人の養成を目指しています。 ①現在の経済活動の仕組みと趨勢を理解したうえで、経済環境の変化に対応した必要な経済政策の内容と意味を深く読み解き、将来の経済社会の方向性を明確に見通すことができる「経済政策に強い社会人」。 ②グローバルな経済環境の中における中部経済圏の特性や位置づけに関する高い分析力を有し、地域（ローカル）経済の変容に対して柔軟に対応して問題解決に貢献できる「グローバルなビジネスパーソン」。そのための経済学部の教育研究上の目的は、本学の建学の精神である「行学一体・報恩感謝」に基づいて、経済学の基礎的及び専門的な知識を幅広く学び、その実践的応用によって現代経済の構造変容の実態と新しい課題を自ら分析する力を身に付けることにあります。そして、それらを基礎として問題の本質を的確に把握し、課題解決のための適切な方法を構想しうる透視力や洞察力を培うとともに、人間的共感と社会的公正を双軸とする豊かな経済社会の実現に寄与しうる幅広い教養を涵養することにあります。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf)

(概要) 経済学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○経済学部経済学科 経済学部にて所定の期間在学し、経済学部が定める科目分野ごとに卒業要件単位数をすべて満たし、教養教育科目、専門教育科目およびキャリア教育科目について所定の単位を修得するなかで以下の知識、能力を身につけた学生に対して、学士（経済学）の学位を授与します。 ① 豊かな教養と汎用的基礎学力を身に付けている。（基礎的学士力：教養力、文化的理解力、理論的基礎力、語学的コミュニケーション能力、数量的理解力、ICT 処理能力） ② 幅広い経済学的知識を基盤として課題を発見し、学びの道筋を構想することができる。（基盤的学士力：問題発見力、論理的思考力） ③ 経済学の多面的な知見と多角的な分析方法を用いて課題解決を導くことができる。（発展的学士力：応用的分析力、協働的实践力、問題解決力） ④ 学びの成果の実践的な応用と総合的な活用によって経済社会の在り方を構想することができる。（総合的学士力：実践的応用力、倫理的判断力、総合的構想力、生涯学習力） ⑤ 将来の進路に向けて計画的にキャリア形成を実践することができる。（実践的学士力：基礎的キャリア形成力、社会人基礎力、応用的キャリア形成力）
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2023_01.pdf）
(概要) 経済学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○経済学部経済学科 経済学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げた教育目標を達成するために、以下の方針にもとづいてカリキュラムを編成し、これを実施します。 I 編成方針 (1) 幅広い教養の修得を目指す教養教育カリキュラム 専門教育に不可欠な広い視野と学問領域にとらわれない広範な教養、豊かな人間性の涵養を目的として、以下のカリキュラムにもとづいて教養教育を展開します。 ① 宗教学：本学の「建学の精神」の理解と実践のための必修科目 ② 教養基幹科目：学びの方法の修得を目的とした初年次の「教養セミナー」および人文系、社会系、自然系、主題系からなる科目 ③ 外国語科目・海外事情科目：語学を通じて異文化への理解を深め、国際的に活躍するために必要な教養を修得することを目的とする科目 ④ 健康総合科学科目：各種スポーツの理論の修得と実践をとおして健康の自己管理能力を養う科目 (2) 体系性を重視した専門教育カリキュラム ディプロマ・ポリシーに掲げられた学士力の修得に向けて、体系的に編成されたカリキュラムにもとづいて専門教育を展開します。具体的には、以下のように専門教育科目を基礎科目、基幹科目、発展科目の三群に区分し、それぞれの目的と性格を明確に位置づけています。 ① 基礎科目：汎用的基礎学力と経済学の理論的基礎を培う科目 ② 基幹科目：経済の諸課題の発見を可能とし、専門分野の学びへの導入を図る基幹的な科目 ③ 発展科目：多層的な視点からの応用的および実践的な学びをとおして学びの総合へ導く科目 (3) 実践的なキャリア形成を支援するキャリア教育カリキュラム 就職に向けたキャリア形成の支援を目的として、キャリア教育科目を開講します。キャリア教育科目を履修することによって、希望する職業に就くための知見やキャリア・スキルを修得できるだけでな

く、大学4年間の学びを将来の進路選択に向けて、いかに目的意識的かつ計画的に進めていくべきかについて、自ら考える機会をもつことができます。自己分析によって自らの個性、価値観、職業適性などについて理解を深め、他者と対話し、協働し、自己を表現する力を身につけることによって、キャリア形成の基礎力を修得します。さらに、実践的な社会人基礎力を磨くとともに、企業活動の最前線を見聞し、職業世界の多様性に接し、実際に就業を体験することによって、将来の進路を主体的に選択できる力を養うことができます。

II 実施方針

(1) 順次性を考慮した授業の実施 専門教育科目の3つの科目群を、以下のように基礎、応用、実践、総合の4段階に分けて、専門分野の学びの成果を段階的に積み上げながら獲得できる、順次性を考慮した授業を実施します。

①【基礎】：経済理論の基礎に学ぶ中で、経済の諸問題にアプローチするための基本的な考察を行い、経済学 的な思考を身につけます。また、実践的な英語力や数学的な分析手法、データ収集と情報処理の技法など、経済学の基盤となるスキルを修得します。

②【応用】：基礎レベルで学んだ知識を基盤として経済学の専門分野を学ぶ中で、探求すべき問題を発見し、それぞれの専門分野に関する論理的思考力、応用的分析力を身につけ、現代経済の理解を深めます。

③【実践】：基礎から応用へと段階的に積み重ねて得た経済学的知見を、企業や行政の実務とのフィードバック によって検証するとともに、さまざまな経済活動を体験的に学ぶ中で実践的応用力を磨きます。

④【総合】：専門演習の場において文献講読、プレゼンテーション、討論などを通じて専門研究を深め、4年間の 仕上げとして卒業論文をまとめます。課題設定、資料収集、仮説検証、結論導出という論文作成過程の中で 問題解決力と総合的構想力を培います。

(2) 進路別コア履修モデルの設定 経済学部では、卒業後の進路を視野に入れて計画的に履修を進めることができるように、進路別にコアとなる授業科目を選別した履修モデルを設けています。学生は、この進路別コア履修モデルを指針として、将来の進路にとって重要である科目分野を重点的かつ体系的に履修することができます。

進路別コア履修モデルは、とくに以下の5分野への進路について設定されています。

① 企業の中心的部門において、経済学の各領域をバランスよく熟知し、経済事象と経済政策を正しく解析する能力をもち、企業戦略の立案や展開に能動的に取り組むことができるビジネスパーソン

② 国あるいは地方公共団体において、経済社会に方向性を与えるべく経済政策を立案し、執行する公務員

③ 地域社会の福祉、医療、環境などの分野において、将来の社会の在り方に関する明確な構想力をもって実践活動に 従事し、地域社会の発展をリードできる職業人

④ 金融政策、金融システム、地域金融の役割を正しく理解し、地域の経済状況と地域特性を把握して、その活性化に 資する金融業務を遂行できる金融ビジネスパーソン

⑤ 民間の調査研究機関において、専門的な立場から内外の経済を調査・分析し、具体的な政策提言を行うことができる 専門的調査研究員

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission2023_01.pdf)

(概要)

経済学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学HP及び入試要項に掲載している。

○経済学部経済学科

経済学部は、以下のような学力、関心、目的意識をもった学生を受け入れる方針です。

① 高等学校等で外国語、数学、国語、理科、地理歴史・公民を学習し、経済学を学ぶための基礎的な学 力を有している人。

② 国内外の経済や社会の問題に幅広い関心を持っている人。

③ 経済の仕組みを学んで経済政策の意味内容を理解できるようになりたい人。

④ グローバルな視野から地域経済の発展を担うビジネスパーソンを目指す人。

- ⑤ 経済学的思考と方法を修得して新しい経済社会の在り方を追求したい人。
 ⑥ 豊かな人間性を育て社会貢献のできる場で活躍したい人。

学部等名 法学部（法律学科、現代社会法学科）
教育研究上の目的 （公表方法： https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf ）
（概要） 法学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。 <u>○法学部法律学科</u> 法律学科は、「公正」、「正義」に代表される法の精神と「行学一体・報恩感謝」という本学の建学の精神を身に付けた上で、法律学を基礎から応用へと体系的かつ段階的に学習することにより、法律学の体系的知識を踏まえた法的判断能力を育成することを通じて、法的な専門家のみならず広く社会で活躍できる人材の育成を目的とします。 そのための教育研究上の目的は、社会及び多様な文化に関する知識の理解、自己管理力・コミュニケーション能力・チームワーク力及び文章作成能力の獲得、「公正」「正義」に代表される法の精神の理解を通じた市民としての社会的責任の自覚のほか、特に、法律学の体系的知識の理解、事実を客観的に把握する能力・体系的論理的に思考する能力及び物事を公正に判断する能力の獲得とします。 <u>○法学部現代社会法学科</u> 現代社会法学科は、「公正」、「正義」に代表される法の精神と「行学一体・報恩感謝」という本学の建学の精神を身に付けた上で、法と政治の基礎理論を踏まえつつ、現代社会が抱える法的諸問題を発見し、これを合理的に解決できる能力を育成することを通じて、法的な専門家のみならず広く社会で活躍できる人材の育成を目的とします。 そのための教育研究上の目的は、社会及び多様な文化に関する知識の理解、自己管理力・コミュニケーション能力・チームワーク力及び文章作成能力の獲得、「公正」「正義」に代表される法の精神の理解を通じた市民としての社会的責任の自覚のほか、特に、法律学・政治学の体系的知識の理解、現代的諸問題を発見する能力・複眼的視点に基づいて問題を分析する能力及び現実即して問題を解決する能力の獲得とします。
卒業の認定に関する方針 （公表方法： https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf ）
（概要） 法学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 <u>○法学部法律学科</u> 法学部法律学科では、愛知学院大学のディプロマ・ポリシーのもと、所定の期間在学し、以下の知識、能力、資質を身につけ、教養科目・専門科目・キャリア教育科目について所定の単位を修得した者に、学士（法学）の学位を授与します。 1. 汎用的知識 社会及び多様な文化に関する知識を理解していること。 2. 専門的知識 法律学の体系的知識を理解していること。 3. 汎用的能力 自己管理力、コミュニケーション能力、チームワーク力及び文章作成能力を身につけていること。 4. 専門的能力（法的判断能力） 事実を客観的に把握する能力、体系的・論理的に思考する能力及び物事を公正に判断する能力を 身につけていること。 5. 豊かな人間性 「公正」「正義」に代表される法の精神を理解し、また市民としての社会的責任を自覚していること。 <u>○法学部現代社会法学科</u> 法学部現代社会法学科では、愛知学院大学のディプロマ・ポリシーのもと、所定の期間

在学し、以下の知識、能力、資質を身につけ、教養科目・専門科目・キャリア教育科目について所定の単位を修得した者に、学士（法学）の学位を授与します。

1. 汎用的知識 社会及び多様な文化に関する知識を理解していること。
2. 専門的知識 法学・政治学の体系的知識を理解していること。
3. 汎用的能力 自己管理能力、コミュニケーション能力、チームワーク力及び文章作成能力を身につけていること。
4. 専門的能力（法的・政治的諸問題の発見・解決能力） 現代的諸問題を発見する能力、複眼的視点に基づいて問題を分析する能力及び現実に即して問題を解決する能力を身につけていること。
5. 豊かな人間性 「公正」「正義」に代表される法の精神を理解し、また市民としての社会的責任を自覚していること。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2023_01.pdf）

（概要）

法学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○法学部法律学科

法学部法律学科は、大学の建学の精神である「行学一体・報恩感謝」に基づき、法学の体系的な学修などを通じて人格を陶冶し、豊かな人間性を涵養することを目指します。この基本理念を達成するため、法律学科では、愛知学院大学のカリキュラム・ポリシーのもと、以下のカリキュラム・ポリシーを採用しています。

＜教育課程の編成に関する基本的な考え方＞

幅広い教養と法的素養をバランスよく身につけられるよう、教養科目と専門科目を設置する。また、キャリア・デザイン支援を目的とするキャリア教育科目を設置する。これらの科目において、論理的思考能力や高い倫理観などを育むことのできるカリキュラムを編成し実施する。殊に、専門科目においては、体系的な知識の修得のため、段階的かつ系統立った教育課程を編成する。そのため、1・2年次には基礎的かつ広範な学修、3・4年次には応用的かつ専門性の高い学修ができるカリキュラム設定を行う。また、キャリア教育科目を通じて、実社会における有用な知識の修得のため、現実の諸問題への対応能力を養成できる環境を整える。法律学科では、とりわけ法律学の体系的理解に基づく法的判断能力の育成に重点をおく。

＜教育課程の実施に関する基本的な考え方＞

1. 初年度教育の充実 大学での基礎的な学び方を身につけられるよう、初年度教育を充実させる。そのため、1年次には法学に関する種々の入門科目を設けるとともに、少人数制の基礎演習を設置し、専門的な学びのための基礎力を養成する。

2. 教養教育の充実 宗教学、教養基幹科目（人文系、社会系、自然系、主題系）、健康総合科学科目及び少人数制の教養セミナーを設置し、幅広い教養を身につける機会を提供する。また、多様な外国語科目を設置することにより、語学力の向上を図ると同時に、異文化への理解やグローバルな視野も育成する。

3. 学科の特性を考慮した教育課程の実施 法律学科では、法学の体系的知識を踏まえた法的判断能力の育成を目標とする。そのため、条文解釈・判例分析や制度論を学べる場や機会を多く提供することにより、体系的な教育を実施する。また、より専門性を高めるために「コース制」を採用し、希望する進路などに応じて「総合コース」「公法コース」「ビジネス法コース」の3つの選択肢（コース）を用意する。2年次以降は、選択したコースに応じた科目履修を求める。

4. 少人数制の演習科目 個々人の法的判断能力を伸ばすのに適した少人数の演習科目を各学年に配置し、在学4年間を通して1人1人に行き届いた教育を実践する。そのため、1・2年次には「基礎演習」及び「教養セミナー」を、3・4年次には「専門演習」を配当する。これらの演習科目を通じて、法学教育のみならず、主体性、協働性やコミュニケーション能力・文章作成能力の育成なども含む包括的な指導を個別に行う。なお、教養セミナー及び専門演習においては、担当教員がアドバイザーとなるアドバイザー制度を設ける

ことにより、学生生活全般にわたってサポートする。

5. キャリア支援 キャリア教育科目として、将来の進路を考え必要な知識やスキルを修得する「キャリア・デザイン」、一定水準以上の法律系資格取得を通してキャリア形成を支援する「法律実務」、産官民と連携して実践的な知識を学ぶ「産官民提携講座」、実際の職場で働く経験をする「インターンシップ」などのキャリア支援科目を設置する。また、法的素養はあらゆる職業の基礎となるため、各科目において、将来のキャリアに有用となりうる教育を取り入れる。

○法学部現代社会法学科

法学部現代社会法学科は、大学の建学の精神である「行学一体・報恩感謝」に基づき、法律学及び政治学の体系的な学修などを通じて人格を陶冶し、豊かな人間性を涵養することを目指します。この基本理念を達成するため、現代社会法学科では、愛知学院大学のカリキュラム・ポリシーのもと、以下のカリキュラム・ポリシーを採用しています。

<教育課程の編成に関する基本的な考え方>

幅広い教養と法的素養をバランスよく身につけられるよう、教養科目と専門科目を設置する。また、キャリア・デザイン支援を目的とするキャリア教育科目を設置する。これらの科目において、論理的思考能力や高い倫理観などを育むことのできるカリキュラムを編成し実施する。殊に、専門科目においては、体系的な知識の修得のため、段階的かつ系統立った教育課程を編成する。そのため、1・2年次には基礎的かつ広範な学修、3・4年次には応用的かつ専門性の高い学修ができるカリキュラム設定を行う。また、キャリア教育科目を通じて、実社会における有用な知識の修得のため、現実の諸問題への対応能力を養成できる環境を整える。現代社会法学科では、とりわけ法的・政治的諸問題の発見・解決能力の育成に重点をおく。

<教育課程の実施に関する基本的な考え方>

1. 初年度教育の充実 大学での基礎的な学び方を身につけられるよう、初年度教育を充実させる。そのため、1年次には法学・政治学に関する種々の入門科目を設けるとともに、少人数制の基礎演習を設置し、専門的な学びのための基礎力を養成する。

2. 教養教育の充実 宗教学、教養基幹科目（人文系、社会系、自然系、主題系）、健康総合科学科目及び少人数制の教養セミナーを設置し、幅広い教養を身につける機会を提供する。また、多様な外国語科目を設置することにより、語学力の向上を図ると同時に、異文化への理解やグローバルな視野も育成する。

3. 学科の特性を考慮した教育課程の実施 現代社会法学科では、法的・政治的諸問題を発見し解決する能力の育成を目標とする。そのため、現実の諸問題を法的・政治的観点から考える場や機会を多く提供することにより、実践的な教育を実施する。従来の体系的な法学・政治学の履修科目ではなく、現実の諸問題を法的・政治的観点から考えることを重視した科目を設置する。また、授業の履修や希望進路選択の参考となる「パッケージ制」を採用し、「公務員（公共行政）」「公務員（地域の安全・福祉）」「製造・小売業」「金融・保険」「サービス・通信・不動産」「地域づくり」「家族・福祉」「政治・マスコミ」「国際関連」の9つの選択肢（パッケージ）を用意する。「パッケージ制」を実質化するために、学生のキャリア形成との結びつきを意識した実践的な教育課程を実施する。

4. 少人数制の演習科目 個々人の法的・政治的諸問題の発見・解決能力を伸ばすのに適した少人数の演習科目を各学年に配置し、在学4年間を通して1人1人に行き届いた教育を実践する。そのため、1・2年次には「基礎演習」及び「教養セミナー」を、3・4年次には「専門演習」を配当する。これらの演習科目を通じて、法学・政治学の教育のみならず、主体性、協働性やコミュニケーション能力・文章作成能力の育成なども含む包括的な指導を個別に行う。なお、教養セミナー及び専門演習においては、担当教員がアドバイザーとなるアドバイザー制度を設けることにより、学生生活全般にわたってサポートする。

5. キャリア支援 キャリア教育科目として、将来の進路を考え必要な知識やスキルを修得する「キャリア・デザイン」、一定水準以上の法律系資格取得を通してキャリア形成を支援する「法律実務」、産官民と連携して実践的な知識を学ぶ「産官民提携講座」、実際の職場で働く経験をする「インターンシップ」などのキャリア支援科目を設置する。また、法的素養はあらゆる職業の基礎となるため、各科目において、将来のキャリアに有用とな

りうる教育を取り入れる。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission2023_01.pdf)

(概要)

法学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学 HP 及び入試要項に掲載している。

○法学部法律学科

1. 求める人物像 法学部法律学科では、愛知学院大学のアドミッション・ポリシーのもと、以下に掲げる意欲や資質、能力等を有する人物を求めます。

① 社会への強い関心を有し、法律学科で身につけた専門的知識・能力を活かして社会に貢献しようとする情熱を有する者。

② 物事を公正に考え、正義を尊び、他者に共感する心を持っている者。

③ 法的諸問題を体系的・論理的に分析する意欲を有する者。

④ 高等学校等での国語、外国語、地理歴史・公民、数学、理科などの学習を通じて、法律学科での学修に必要な基礎学力、論理的思考力、知的素養を身につけている者。

2. 入学者選抜の方針 法律学科は、公平かつ多様な入学試験を実施することで、上記の意欲や資質、能力等を有する人物を選抜します。

○法学部現代社会法学科

1. 求める人物像 法学部現代社会法学科では、愛知学院大学のアドミッション・ポリシーのもと、以下に掲げる意欲や資質、能力等を有する人物を求めます。

① 社会への強い関心を有し、現代社会法学科で身につけた専門的知識・能力を活かして社会に貢献しようとする情熱を有する者。

② 物事を公正に考え、正義を尊び、他者に共感する心を持っている者。

③ 法的・政治的諸問題を実践的・主体的に探求する意欲を有する者。

④ 高等学校等での国語、外国語、地理歴史・公民、数学、理科などの学習を通じて、現代社会法学科での学修に必要な基礎学力、論理的思考力、知的素養を身につけている者。

2. 入学者選抜の方針 現代社会法学科は、公平かつ多様な入学試験を実施することで、上記の意欲や資質、能力等を有する人物を選抜します。

学部等名 総合政策学部総合政策学科

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purposel.pdf>)

(概要)

総合政策学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○総合政策学部総合政策学科

総合政策学部は、建学の精神である「行学一体」、「報恩感謝」を具現化するため、広く世界・日本・地域の動きを視野に入れ、人々の生き方や社会のありように関心を寄せ、これからのあり方を考えるために必要な基礎的なリテラシーを土台に、主体的な問題意識と能動的な行動力を身につけ、幅広い教養と実践的な問題発見・解決能力をもった即戦力の社会人を育成します。そのための教育研究上の目的は、

①現代社会を幅広く俯瞰できる教養と専門知識、

②多様性への理解、

③コミュニケーション力、

④社会参加、

⑤課題発見力、 ⑥課題解決のための技能、 ⑦総合的な知恵、以上 7 項目の獲得・達成とします。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf)
(概要) 総合政策学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○総合政策学部総合政策学科 総合政策学部では、現代社会を幅広く俯瞰できる教養と専門知識、課題解決のための技能を修得し、以下の能力・資質を身につけていると判定したものに学位を授与します。 【多様性への理解】 人種・性別・障害の有無などの外形的違いだけでなく、文化・価値観など多様性を理解し、相手の立場を尊重できる。 【コミュニケーション力】 積極的な意思疎通のできる開かれた心と相互理解を深めるためのコミュニケーション力を身につけている。 【社会参加】 社会の一員として様々な主体と協力し、主体的に問題解決に向けた行動を取ることができる。 【課題発見力】 客観的な情報を元に現状の問題を把握・分析し、解決へ向けた方向づけができる。 【課題解決力】 課題解決へ向けた計画策定、実施、評価、改善を遂行する力を身につけている。 【総合的な知恵】 現代社会を理解するのに必要な多分野にわたる知識をもち、物事を総合的かつ実践的に判断していく知恵を獲得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2023_01.pdf)
(概要) 総合政策学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○総合政策学部総合政策学科 総合政策学部では、卒業判定・学位授与の方針（DP）に掲げた目標を達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。 【教育内容】 ① 「教養科目」においては、現代社会に生きる人間にとって必要な教養を養成します。必修科目である「宗教学」をはじめ、選択科目として「教養基幹科目」である人文系、社会系、自然系、主題系の科目群、国際人として活躍するにふさわしい外国語能力の育成を目指した「外国語科目」、健康の価値と運動の楽しさを理解する「健康総合科学科目」、海外語学研修の実施に対応した「海外事情科目」を開講します。 ② 「リテラシー科目」においては、政策・企画の立案・提言をする基礎的な能力を 4 つに分け養成します。これらのうち基本となるものを 1・2 年次の必修とします。 (1) 「言語リテラシー科目」は、実践的な英語および日本語での言語コミュニケーション能力の養成を目指します。 (2) 「情報リテラシー科目」は、ICT（情報通信技術）を情報収集・分析・とりまとめ・発表などの道具として自在に活用できる能力を身につけます。 (3) 「リサーチリテラシー科目」は、実態を明らかにし、原因を分析するための、社会

調査や統計の知識・技術を修得します。

(4) 「プランニングリテラシー科目」は、課題解決のための政策や企画を立案するために、論理的な思考法や計画技術、合意形成のための技術を修得します。

③ 「基盤科目」においては、政策・企画の立案・提言をするために必要な専門知識のうち、共通した基盤となるものを修得します。特に、総合政策概論、政策規範論、政策過程論、政策評価論は必修とします。また、「展開科目」の6つのクラスターの概論的な科目を1年次から履修できる選択必修科目として設定します。

④ 「展開科目」においては、具体的な政策・企画の立案・提言をするうえで必要な専門的知識体系を修得します。専門領域としては、現代社会を総合的に俯瞰することができる、「政治・行政クラスター」、「経済・環境クラスター」、「国際クラスター」、「社会・文化クラスター」、「人間科学クラスター」、「情報・メディアクラスター」の6つのクラスターと総合的に学ぶことができる総合領域を用意しています。いずれの科目も2年次以降履修できる選択科目となります。

⑤ 「リサーチ・プロジェクト」においては、1年次から4年次まで少人数クラスで、総合的かつ実践的に、課題発見・解決に向けた演習を行います。1年次では、スタディスキルの獲得から、文献調査やフィールド調査、グループワークによるディスカッション、プレゼンテーションなど、能動的に調べ考える技法について学びます。2年次では、専門領域における問題発見や研究・分析方法、政策・企画の立案・提言方法などを実践的に学びます。3年次・4年次では、独創性を備えた政策の立案・提言ができる力の養成を目指して、現実の問題により深くコミットした調査・研究・実践を行います。

【教育方法】

① リサーチ・プロジェクトおよびリテラシー科目においては少人数クラスを基本とし、教員の目が学生に行きわたるようにします。また、そのことで、学生の中に協働やプロジェクト意識が生まれます。

② 同じ内容を複数クラスで実施する科目については、担当教員によるチームティーチングを行います。このことで、教育内容を統一し到達レベルを標準化すると同時に教育上の問題解決を教員が協働で行うFDの実践ができます。

③ 英語科目においては習熟度別のクラス編成を行い、学生の習熟度に合わせた教育内容を提供します。

④ 理論的な専門知識を実社会での問題解決に適用しようとしても限界があります。逆に問題を深く洞察するためには専門知識が不可欠です。そこで、講義室で学ぶ学術知と、問題の現場から学ぶ実践知を融合したアクティブラーニングを行います。

⑤ 学生が協働しながら学ぶグループワークを取り入れることで、1人では気づけなかった事柄を理解しより広く深い学修ができます。また、そのプロセスを通じ、相互扶助の精神を養い、1人ひとりの役割に気づくことで自分の可能性を開くことができます。

⑥ 先輩学生が後輩学生の学修支援を行うピアサポートを授業およびコンピュータ室で実施します。後輩学生の授業への理解が深まるだけでなく、教える側の先輩学生にとっても成長の機会となります。

【教育評価】

① 科目の性質により、様々な学修成果の評価方法を適用します。学期末に行う試験やレポート課題だけでなく、授業内での小課題やリアクションペーパーなどで理解度や達成度を評価します。また、アクティブラーニング型授業においては学期末にプレゼンテーションを行い評価することもあります。

② データの収集、分析など、データを扱うスキルを修得した学生に対し、学部独自に証明証を発行します。

③ リサーチ・プロジェクトでは、クラス内のプレゼンテーションだけでなく、学年全体でプレゼンテーションする機会を設け、複数の評価主体からの評価を受けます。

④ 1年間の振り返りとして、定量的・定性的な評価シートを用い、学生自ら現状の評価を行います。またこれを踏まえアドバイザー教員との面接を行い、今後の学修の方向性を確認します。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission2023_01.pdf)
(概要) 総合政策学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学 HP 及び入試要項に掲載している。 また、学力と意欲の点で優れた人をできるだけ幅広く募り、公平かつ多様な方法で選抜するという方針に基づき、「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「特別入試」を実施している。 特に総合型選抜に高大接続型入試を導入し、高校における学習歴や学習意欲、目的意識を総合的に評価し大学の学びとのマッチングを重要視している。 ○総合政策学部総合政策学科 総合政策学部では、卒業認定・学位授与の方針 (DP) 及び教育課程編成・実施の方針 (CP) に定める教育を受けるために必要な、以下に掲げる目的意識や意欲、資質、能力を身につけた人物を求めます。 ① 身近な社会問題についての問題意識をもち、基礎的な情報や知識を取得しており、主体的に 解決したいという意欲がある。 ② グループワークなど協働の場で、他の人と協力しながら課題に取り組むコミュニケーション力と、 それをやり遂げる意欲がある。 ③ 高等学校等の教育課程における基礎的な知識・技能と、それに基づく思考力・判断力・表現力をもつ。特に、 (1) 現代社会の基本的な問題に対する判断力の基礎と、それと関連させながら人間としての在り方生き方を考える力、 (2) 人間と人間との関係の中で互いの立場や考えを尊重しながら 言語を通して円滑に相互伝達・相互理解を進めていく能力、 (3) 外国語を通じて、言語や文化に 対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力をもつ。 ④ 求められる課題に最後まで取り組むことができる。
学部等名 心身科学部 (心理学科、健康科学科、健康栄養学科)
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf)
(概要) 心身科学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○心身科学部心理学科 心理学科は、幅広い教養を基礎にして人及び人が営む生活に対する心理学的視点を多角的かつ科学的に形成し、柔軟性をもった人材の育成を目的としています。そのための教育研究上の目的として、 ① 「こころ」と「からだ」の相互関係を理解する、 ② 身につけた知識・技術を自分及びその家族・友人等の心理的健康の保持・増進に活用することができる、 ③ あらゆる職場における業務に柔軟性をもって対応することができる、 ④ 広範にわたる心理学分野において専門的な知識・技術を身につけ「心の問題」に対応できる専門家を養成する、の 4 項目をあげ教育の基本理念としています。 ○心身科学部健康科学科 健康科学科は、医学的な学修を基礎として心身の健康づくりに関する様々な知識や実践方法を身に付けた人材の育成を継続して行ってきました。学科にある 3 つのコースが目指す人材の育成は、次の様な方向性を持っています。すなわち、 ① スポーツ科学を通して人々の健康づくりをサポートできる人材の育成、 ② 養護教諭など、個人や集団の健康開発を熟知し、医療と連携した健康指導がおこなえる人材の育成、

③言語聴覚士として、医療や福祉、保健、教育その他の研究機関などの幅広い分野で活躍できる人材の育成を目的としています。

そのための教育研究上の目的として、

- ①人間性豊かで科学的な知識を背景とする保健体育教員の養成、
- ②健康スポーツ科学や言語聴覚科学に関する研究の推進、
- ③地域における健康づくりやスポーツイベントへの貢献、
- ④障がい者スポーツを始めとするスポーツ活動の推進・協力を掲げ、基本理念としています。

○心身科学部健康栄養学科

健康栄養学科は、幅広い基礎科目の展開と専門科目の積み上げによって管理栄養士・栄養士としてのコンピテンシー（成果につながる行動特性）を高めるとともに、管理栄養士・栄養士という職業人としての倫理（職業倫理）を身につけ、人間栄養学に基づく先端の専門知識と確かな技術を有し、人のために奉仕し努力する人材の育成を目的としています。

これを実現するために、管理栄養士・栄養士に求められる、

- ①実践活動の場での問題解決力、
- ②グローバルな視点に立った総合的、複眼的な思考力、
- ③高度情報化に対応したコミュニケーション力、
- ④多職種との連携にも対応できる専門知識・技術の獲得、達成を教育研究上の目的としています。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf）

（概要）

心身科学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○心身科学部心理学科

心理学科では、人間および人間が営む生活に対する心理学的視点を多角的・科学的に形成し、自分およびその家族・友人等の心理的安定や活性化に活用することができ、対人支援業務のみならずあらゆる職場における業務に柔軟性をもって活用・応用することができる知識と技術を修得した者に学位を授与する。

○心身科学部健康科学科

健康科学科では、人々が豊かな人生を歩めるように、健康科学を活かしたアプローチができる人材を養成します。健康科学が包含する専門分野において、以下の能力を身につけていると判定したものに学位を授与します。

- ① 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。
- ② 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。
- ③ コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。
- ④ 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。

○心身科学部健康栄養学科

- ① 栄養・食生活と心身の健康との相互関係に関する知識を身につけている。
- ② 栄養・食品・調理に関する知識を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる。
- ③ 環境づくり（食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など）の必要性を理解し実践できる。
- ④ 疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法について、科学的根拠に基づき説明できる。
- ⑤ 栄養ケアマネジメントを実践できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2023_01.pdf）

(概要)

心身科学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。

○心身科学部心理学科

心理学科では、卒業判定・学位授与の方針 (DP) に掲げた目標を達成するために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。

【教育内容】

① 「認知・行動」「発達・教育」「人格・臨床」「社会・産業」「計量」の心理学ほぼ全領域にわたって、人間とは 何かについて深く探求する基礎的な科目から現実問題に対処する応用的科目まで幅広く配置し、段階的、 系統的な教育を実践します。

② 1 年次においては、教養科目にて幅広い教養を身につけると同時に、心理学と他の隣接諸科学と結びつけ て考える力を培い、心理学が人間の生活全般に密接にかかわることを理解します。また基礎的な心理実験 を体験し、分析し、結果をまとめる作業を少人数グループで行う実験演習科目を置きます。

③ 2 年次においては、実験演習科目に加えて「認知・行動」「発達・教育」「人格・臨床」「社会・産業」「計量」 領域の演習科目を置きます。ここでは、グループ学習を通じ、課題発見、課題解決に向けた演習を行います。

④ 3 年次では、卒業研究につながる演習科目 (ゼミ) がスタートします。心理学研究法全般についての学びを 深めつつ、自身の興味・関心に合わせてさらに専門的な研究の方法論を、実践しながら習得します。 また、3 年次では、特定の心理現象に関して発展的に学ぶ科目を置きます。

⑤ 4 年次では、3 年次から継続する演習科目 (ゼミ) を通じてデータ収集・解析・報告書作成に関する実践的 技能を獲得し、卒業論文を作成します。その過程では、ディスカッション、プレゼンテーションを行うなど、 実践するための知識・技能・態度を培うことを教育内容とします。

【教育方法】

① 1 年次、2 年次の実験演習科目においては、4 領域に分けて実験を行っており、教員と実験助手が目配る ことで適切に実験を進められるようにします。実験を通じ、現象について多角的・科学的に見る力、思考する 力を養います。また少人数グループ分けをし、グループ内での協力しながら作業を行うことにより、協働や プロジェクト意識が生まれます。

② 2 年次以降で展開する「認知・行動」「発達・教育」「人格・臨床」「社会・産業」「計量」領域の演習科目では、 心理学の専門知識を、自身や身近な人々の心理的安定や活性化に活用するなど実生活に活かす力を養う ことを重視します。自身が心理的介入の効果を実感することでさらなる学びへの意欲が高まるよう、アクティブ ラーニングを積極的に取り入れます。

③ 学生が協働しながら学ぶグループワークを積極的に取り入れることで、現実の問題について多角的に見立て て分析する視点が養われます。またその過程を通じて芽生える学生同士の連帯感や相互扶助の精神は、 対人支援に携わる者としての基本的な心構えを育みます。

④ 「総合研究演習」科目においては、2 年間を通じて同一教員が指導にあたります。これにより、一貫した方針の もとで卒業論文の作成に取り組む流れがわかりやすくなり、問題を科学的に捉える視点や態度が培われます。 またアクティブラーニング型の授業であるため、問題意識を持つ、調査を計画する、実施する、分析する、結果 をプレゼンテーションする、すべてにわたって主体的に取り組む姿勢が養われます。

⑤ 必修科目である「心理学統計法」においては、習熟度別クラス編成を行い、学生の習熟度に合わせた教育内容 を提供します。

【教育評価】

① 科目の性質により、様々な学習成果の評価方法を適用します。学期末に行う試験やレポート課題だけでなく、 授業内での小テスト等で理解度や達成度を評価します。また、アクティブラーニング型の授業では、授業内 でのプレゼンテーションおよびそれに向けた取

り組み態度なども評価の対象となります。 ② 1年間の振り返りとして、定量的・定性的な評価シートを用い、学生自ら現状評価を行います。これらの結果は、今後の学習の方向性を確認、検討するために役立てます。 ○心身科学部健康科学科 ① 健康科学が包含する幅広い領域の専門家が科学的根拠に基づいた教育を実施します。 ② 講義科目と連携した実技系・演習系科目を展開し、専門的な知識と実践の融合を図ります。 ③ 学生がグループで協働して学習する機会を確保します。 ④ 学生が自ら健康課題を発見し解を見出していくアクティブラーニングを積極的に展開します。 ⑤ 自らの学びを深めるために、国内外のボランティアやインターンシップなどの課外活動を奨励します。 ⑥ すべての科目において、個性を尊重した人間教育を実施します。 ○心身科学部健康栄養学科 ① 建学の精神「行学一体、報恩感謝」に立脚した職業倫理の育成をする。 ② 幅広い基礎科目の展開から認知力を高めるとともに、専門科目を積み上げることにより専門的な知識を深めること で、人間栄養学に基づく先端の専門知識と確かな技術力の育成をする。 ③ 講義科目と連携した演習・実習科目を通じて、栄養士・管理栄養士に必要とされる知識・技能を統合し、実践活動 の場での課題を解決できる能力を育成する。 ④ グローバルな視点に立って総合的、複眼的に考え、EBN (Evidence-Based Nutrition) に基づいて問題解決できる 力の育成をする。 ⑤ 人々の豊かな人生 (QOL: Quality of Life) を支援できる力の育成をする。 ⑥ 高度情報化に対応したコミュニケーション力の育成をする。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission2023_01.pdf)
(概要) 心身科学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学 HP 及び入試要項に掲載している。 ○心身科学部心理学科 心理学科では、心理学に興味があり人間の理解を深めたい人を受け入れるが、心理学各分野の知識・技術を自分や取り巻く人々の生活および将来的な職業に活かしていきたいという明瞭な意思を持つことが望ましい。そこで、学生に求める入学前の学習歴、学力水準、能力を以下に示す。 入学前の学習歴 ・先行研究を理解し、調査、実験、分析を行うため、国語総合、コミュニケーション英語、数学Ⅰ・Ⅱを修得していること。 ・こころの現象に対して多角的にアプローチするため、上述以外にも現代社会、歴史、生物、情報の科学、芸術などの科目を修得していることが望ましい。 学力水準 ・国語、数学、英語の基礎学力を備えていること。 ・「文系」および「理系」とは関係なく、実技教科も含め高等学校の教育内容を幅広く学修していること。 能力 ・心理学の様々な分野に興味を持ち、隣接領域（神経科学、社会学など）の考え方にも関心を持って幅広く学ぶことができる。 ・実験、検査、調査、統計処理、外国語文献読解など、人間を理解するために必要な様々な技能の修得に意欲的に取り組むことができる。 ・論理的に思考し、多様な「こころ」に関する知識を日常生活に応用できる。

○心身科学部健康科学科

- ① 高等学校等で学習した科目について基礎的な学力を有し、それらの学習への興味・関心があるもの。
- ② 健康科学を、積極的かつ前向きに学ぶ意欲があるもの。
- ③ 健康運動指導士、保健体育教員、養護教諭、言語聴覚士等の専門資格取得や健康開発科学、スポーツ科学、言語聴覚科学の学修を希望するもの。
- ④ 健康科学を活かして社会に貢献したいと考え、多様な活動への参加希望があるもの。
- ⑤ 主体性を持ちながらも他者を尊重し、他者と協働して、自らを成長させることができるもの。

○心身科学部健康栄養学科

- ① 高等学校で履修した主要科目（特に、「生物」「化学」関係の科目及び分野）について基礎的な知識を有し、それらの学修への興味・関心がある人。
- ② 栄養士、管理栄養士の国家資格の取得をめざす人。
- ③ 栄養面から健康課題に取り組むための専門分野を意欲的に学ぶ人。
- ④ 健康栄養学科の教育目標、教育内容を理解し、知識や技術の習得に取り組むことができる人。
- ⑤ 主体性をもって多様な価値観をもつ人々と協働して学ぶことができる人。

学部等名 健康科学部（健康科学科、健康栄養学科）

教育研究上の目的

（公表方法：<https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose01.pdf>）

（概要）

健康科学部において策定した教育研究上の目的を大学HP及び履修要項に掲載している。

○健康科学部健康科学科

健康科学科は、医学的な学修を基礎として心身の健康づくりに関する様々な知識や実践方法を身に付けた人材の育成を継続して行ってきました。学科にある3つのコースが目指す人材の育成は、次の様な方向性を持っています。すなわち、

- ① スポーツ科学を通して人々の健康づくりをサポートできる人材の育成、
- ② 養護教諭など、個人や集団の健康開発を熟知し、医療と連携した健康指導がおこなえる人材の育成、
- ③ 言語聴覚士として、医療や福祉、保健、教育その他の研究機関などの幅広い分野で活躍できる人材の育成を目的としています。

そのための教育研究上の目的として、

- ① 人間性豊かで科学的な知識を背景とする保健体育教員の養成、
- ② 健康スポーツ科学や言語聴覚科学に関する研究の推進、
- ③ 地域における健康づくりやスポーツイベントへの貢献、
- ④ 障がい者スポーツを始めとするスポーツ活動の推進・協力を掲げ、基本理念としています。

○健康科学部健康栄養学科

健康栄養学科は、幅広い基礎科目の展開と専門科目の積み上げによって管理栄養士・栄養士としてのコンピテンシー（成果につながる行動特性）を高めるとともに、管理栄養士・栄養士という職業人としての倫理（職業倫理）を身につけ、人間栄養学に基づく先端の専門知識と確かな技術を有し、人のために奉仕し努力する人材の育成を目的としています。

これを実現するために、管理栄養士・栄養士に求められる、

- ① 実践活動の場での問題解決力、
- ② グローバルな視点に立った総合的、複眼的な思考力、
- ③ 高度情報化に対応したコミュニケーション力、
- ④ 多職種との連携にも対応できる専門知識・技術の獲得、達成を教育研究上の目的としています。

卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf)
(概要) 健康科学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○健康科学部健康科学科 健康科学科では、人々が豊かな人生を歩めるように、健康科学を活かしたアプローチができる人材を養成します。健康科学が包含する専門分野において、以下の能力を身につけていると判定したものに学位を授与します。 ① 科学的根拠に基づいた知識や指導力・実践力を持っている。 ② 社会的な健康問題に対して、自ら課題を設定し解決するために考え行動することができる。 ③ コミュニケーション能力があり、協働して目標に向かうことができる。 ④ 健康科学に携わる者として高い倫理観を身につけている。 ○健康科学部健康栄養学科 ① 栄養・食生活と心身の健康との相互関係に関する知識を身につけている。 ② 栄養・食品・調理に関する知識を修得し、個人および集団の健康維持・増進、疾病予防を実践できる。 ③ 環境づくり（食情報・食物および食品確保・食の消費と安全など）の必要性を理解し実践できる。 ④ 疾病の予防・治療および再発を防ぐための食事栄養療法について、科学的根拠に基づき説明できる。 ⑤ 栄養ケアマネジメントを実践できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2023_01.pdf)
(概要) 健康科学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○健康科学部健康科学科 ① 健康科学が包含する幅広い領域の専門家が科学的根拠に基づいた教育を実施します。 ② 講義科目と連携した実技系・演習系科目を展開し、専門的な知識と実践の融合を図ります。 ③ 学生がグループで協働して学習する機会を確保します。 ④ 学生が自ら健康課題を発見し解を見出していくアクティブラーニングを積極的に展開します。 ⑤ 自らの学びを深めるために、国内外のボランティアやインターンシップなどの課外活動を奨励します。 ⑥ すべての科目において、個性を尊重した人間教育を実施します。 ○健康科学部健康栄養学科 ① 建学の精神「行学一体、報恩感謝」に立脚した職業倫理の育成をする。 ② 幅広い基礎科目の展開から認知力を高めるとともに、専門科目を積み上げることで、専門的な知識を深めることで、人間栄養学に基づく先端の専門知識と確かな技術力の育成をする。 ③ 講義科目と連携した演習・実習科目を通じて、栄養士・管理栄養士に必要とされる知識・技能を統合し、実践活動の場での課題を解決できる能力を育成する。 ④ グローバルな視点に立って総合的、複眼的に考え、EBN (Evidence-Based Nutrition) に基づいて問題解決できる力の育成をする。 ⑤ 人々の豊かな人生 (QOL: Quality of Life) を支援できる力の育成をする。 ⑥ 高度情報化に対応したコミュニケーション力の育成をする。

入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission2023_01.pdf)
(概要) 健康科学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学 HP 及び入試要項に掲載している。 また、学力と意欲の点で優れた人をできるだけ幅広く募り、公平かつ多様な方法で選抜するという方針に基づき、「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「特別入試」を実施している。 特に総合型選抜に高大接続型入試を導入し、高校における学習歴や学習意欲、目的意識を総合的に評価し大学の学びとのマッチングを重要視している。 ○健康科学部健康科学科 ① 高等学校等で学習した科目について基礎的な学力を有し、それらの学習への興味・関心があるもの。 ② 健康科学を、積極的かつ前向きに学ぶ意欲があるもの。 ③ 健康運動指導士、保健体育教員、養護教諭、言語聴覚士等の専門資格取得や健康開発科学、スポーツ科学、言語聴覚科学の学修を希望するもの。 ④ 健康科学を活かして社会に貢献したいと考え、多様な活動への参加希望があるもの。 ⑤ 主体性を持ちながらも他者を尊重し、他者と協働して、自らを成長させることができるもの。 ○健康科学部健康栄養学科 ① 高等学校で履修した主要科目（特に、「生物」「化学」関係の科目及び分野）について基礎的な知識を有し、それらの学修への興味・関心がある人。 ② 栄養士、管理栄養士の国家資格の取得をめざす人。 ③ 栄養面から健康課題に取り組むための専門分野を意欲的に学ぶ人。 ④ 健康栄養学科の教育目標、教育内容を理解し、知識や技術の習得に取り組むことができる人。 ⑤ 主体性をもって多様な価値観をもつ人々と協働して学ぶことができる人。
学部等名 心理学部心理学科
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf)
(概要) 心理学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○心理学部心理学科 心理学部は、個人または集団の行動特性と取り巻く環境要因を客観的に評価し、直面する問題への解決策を導くことができる人材、心理学の新しい活用法を立案、展開できる人材を養成します。具体的には、心理学科が継続的に教育活動を実践してきた、認知・行動、発達・教育、人格・臨床、社会・産業、統計分野における心理学の基礎的知見を活用し、帰属するコミュニティの問題解決に能動的に取り組む人材を養成します。また、高いコミュニケーション能力とストレスマネジメント能力を備え、建学の精神である「行学一体・報恩感謝」に基づき、その実力を職業・地域生活・家庭運営等に活用・応用できる人材を輩出します。そのための教育研究上の目的として、 (1) 人の心理的問題を解明または解決するための、科学的アプローチを修得すること。 (2) 医療、産業、地域コミュニティなど様々な状況において活用できる基礎的、専門的知識と技能を修得すること。 (3) 多様な場面における新規の諸問題に対して、多角的かつ科学的に分析し、解決へ導くための応用的技能を修得すること。の 3 項目をあげ教育の基本理念としています。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf)

(概要) 心理学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○心理学部心理学科 愛知学院大学心理学部は、下記のような人材の育成を目指しています。 ① 本学建学の精神である「行学一体」、「報恩感謝」を深く理解し、高い倫理観と豊かな人間性をもつ人。 ② 心理学の専門知識を背景に、人間および人間が営む生活に対する多角的視点を形成し、科学的視点から主体性をもって課題を発見・解決する思考力を有している人。 ③ 心理学・心理的支援に関する知識や技術を有し、それを自分および家族・友人等の心理的安定や 活性化など実生活に活用できる人。 ④ 心理学・心理的支援に関する知識や技術を、対人支援業務をはじめ、多様な産業における業務に 活用・応用し、協働的・協調的に活動できる人。 したがって、下記の条件を満たす者に学士（心理学）を授与する方針です。 (1) 「行学一体」、「報恩感謝」を深く理解し、高い倫理観と豊かな人間性をもって、主体的に社会に貢献 することができる。 (2) 科学的見地から心理学を理解し、専門的で広範な知識や技能を修得している。 (3) 多様な集団において円滑なコミュニケーションを形成しつつ、自身および他者へのストレスマネジメント を施す技能や知識を身につけている。 (4) 医療、教育、対人支援、ものづくり、地域社会など多様な産業分野において、心理学を基軸とした 専門的な知識や技能を用いて主体的に課題の発見と解決ができる 教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2023_01.pdf)
(概要) 心理学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○心理学部心理学科 愛知学院大学心理学部では、卒業認定と学位授与の方針(DP)に掲げた目標達成のために、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。 【教育内容】 ① 「認知」「発達・教育」「人格・臨床」「社会・産業」「統計」の心理学ほぼ全領域にわたって、人間とは何かについて 深く探求する基礎的な科目から現実問題に対処する応用的な科目まで幅広く配置し、段階的、系統的な教育を実践します。 ② 1 年次においては教養科目にて幅広い教養を身につけると同時に、心理学と他の隣接諸科学とを関連づけて 考える力を培い、心理学が人間の生活全般に密接にかかわることを理解します。 ③ 心理学の専門知識と技能を修得し、自身および他者へのストレスマネジメントの能力を養います。 ④ 心理実験や専門的な演習科目を通じて、様々な心理的事象を測定、観察、分析し、結果をまとめるための力を養います。そして課題発見や課題解決のプロセスにおける議論を介して、高いコミュニケーションスキルを身につけます。 ⑤ 3 年次以降において、心理学実践分野、多文化・共生分野、情報ビジネス分野のいずれか一つの分野を 主選択分野として重点的に学修し、心理学を基軸に社会貢献するための応用的知識と技能を高めます。 ⑥ 修得した専門知識を転換することによって問題解決のためのイノベーションを創造するなど、積極的に 社会貢献する人間性を涵養します。 【教育方法】 ① 実験演習や調査演習により、適切なデータ収集や分析の方法を繰り返し体験します。データに含まれる規則性や 法則性を導くための議論を反復することによって、こころの働きに対する洞察力を高めます。 ② 学生が協働しながら学ぶグループワークを積極的に取り入れることで、現実の問題に

について多角的に見立てて 分析する視点を養います。またその過程を通じて芽生える学生同士の連帯感や相互扶助の精神により、対人支援に携わる者としての基本的な心構えを育みます。

③ プレゼンテーション、ディスカッション、研究レポート作成を介して、他者との積極的なコミュニケーションを実践し、自ら学ぶための主体性を高めていきます。

④ 専門展開科目で自らが選択した分野において実践的な技能を修得し、進路選択における学生個人の方針を明確にします。

⑤ 総合研究演習におけるディスカッションを基盤にして、先行研究からここに関わる様々な諸問題を研究テーマ として導き出すことを通じて、学生自身が問題解決のための卒業研究を遂行します。

【教育評価】

① 各科目の性質に応じて、様々な学習成果の評価方法を適用します。学期末に行う試験やレポート課題だけでなく、授業内での小テスト等で理解度や達成度を多面的に評価します。

② アクティブラーニング型の授業では、授業内でのプレゼンテーションおよびそれに向けた取り組みの姿勢などを 評価対象とします。

③ 1年間の振り返りとして、定量的・定性的な評価シートを用い、学生自ら現状評価を行います。これらの結果は、今後の学習の方向性を確認、検討するために役立てます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission2023_01.pdf)

(概要)

心理学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学 HP 及び入試要項に掲載している。

また、学力と意欲の点で優れた人をできるだけ幅広く募り、公平かつ多様な方法で選抜するという方針に基づき、「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「特別入試」を実施している。

特に総合型選抜に高大接続型入試を導入し、高校における学習歴や学習意欲、目的意識を総合的に評価し大学の学びとのマッチングを重要視している。

○心理学部心理学科

愛知学院大学心理学部では、自分や他者のこころの仕組みに興味を持ち、深く理解しようとする意欲のある人を求めます。心理学が扱う多様な領域（認知、発達・教育、人格・臨床、社会・産業、統計）の専門知識とそれらに関連する技術を学んでいく中で、自分を取り巻く人々の営みを理解していくことが重要です。それによって、こころに関わる問題を持つ人を支援する、人々の多様性や異文化を受容する、生活に関わる製品およびサービス開発に活用するなどを通じて社会貢献を目指す明確な意思を持つことが望ましいと考えます。そこで以下に学生に求める入学前の学修歴、能力を示します。

入学前の学修歴

- ・これまでに蓄積された科学的な心理学知見を理解し、調査、実験、分析を行うために、必修科目で学んだことについて幅広く理解していること。

- ・心理学は文理融合型の分野であることを心に留めて、「文系」「理系」にとらわれず、歴史（日本史、世界史）、地理、政治・経済、生物、物理、情報Ⅱ、実技系科目（保健体育、芸術）にも興味を持って幅広く学修していること。

能力

- ・実験、検査、調査、統計処理、外国語文献読解など、人間を理解するために必要な様々な技法の修得に意欲的に取り組むことができること。

- ・論理的な思考を通じて、多様な「こころ」に関する知識を日常生活に応用できること。

- ・心理学だけでなく、隣接領域（多文化共生、データサイエンス、感性工学、神経科学など）の考え方にも興味を持って幅広く学ぶことができること。

- ・心理学の知識と技能を活用することで、主体的な社会貢献に挑戦できること。

学部等名 歯学部歯学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf) (概要) 歯学部において策定した教育研究上の目的を大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○歯学部歯学科 歯学部は、本学の建学の精神である「行学一体・報恩感謝」を歯学教育の分野で実践し、真に国民の歯科医療に貢献し得る幅広い知識と卓越した技術を有し、生涯にわたって自己研鑽に励む強い意識を持つ人材を養成するとともに、国際社会においても優れた貢献をなし得る高度医療人としての歯科医師、及び歯科医療や歯科医学の教育・研究におけるリーダーとして活躍できる優れた人材の養成を目的としています。 そのための教育研究上の目的として、 ①倫理観を持った人間性豊かな歯科医師の養成、 ②学際的教養を身に着けた歯科医師の養成、 ③歯科医療技術に習熟した歯科医師の養成、 ④国際貢献と地域歯科医療への協力の 4 項目を教育の理念としています。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf) (概要) 歯学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○歯学部歯学科 愛知学院大学歯学部は、大学の教育理念・目標を達成するために、学生に豊かな人間性と高い倫理観ならびに専門的知識を備えることを求め、所定の単位を修得した上で、以下の 6 つの能力を適切に評価して、歯科医師として適格と判定した人の卒業を認め、学士(歯学)の学位を授与します。 ① 多様な人々と良好な人間関係を構築するコミュニケーション力を身につけている。 ② 建学の精神と一般教養ならびに高い倫理観と生命科学に関する基本的知識を身につけている。 ③ グローバルな社会で歯科医師の果たす役割を科学的視点から捉え、思考し、行動することができる。 ④ 口腔領域の疾患の予防・診断・治療に関する専門的知識を修得している。 ⑤ 歯科治療に必要な高頻度治療の基礎的技能訓練を修了している。 ⑥ 地域包括医療などのチーム医療に関する基礎的知識を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2023_01.pdf) (概要) 歯学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○歯学部歯学科 歯学部では、本学の建学の精神「行学一体 報恩感謝」を深く理解したうえで、卒業認定・学位授与の方針 (DP) に掲げた目標を達成するために、幅広い分野にわたる教養教育科目及び専門教育科目からなる教育課程を編成し、以下のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。 【教育内容】 ① 「宗教学」をはじめとする教養教育科目を通して建学の精神と豊かな人間性、生命の尊厳、倫理的態度を涵養する。 ② 到達目標を明確化した教育課程を、「教養教育科目」と「専門教育科目」の連携を図りながら体系的に編成し、知識、態度、技能を培う。 ③ 科学的根拠に基づいた予防・診断・治療に関する専門的知識の修得を培う。 ④ 患者さんや医療専門職者など多くの人とのコミュニケーションに必要な知識、態度、

技能を培う。 ⑤ 歯科治療に必要な基礎的技能と最新の歯科治療に必要な知識を学修し、科学的思考能力を培う。 ⑥ 医療現場で求められている医科・歯科連携、多職種連携や在宅医療などのチーム医療に関する基礎的知識を培う。 【教育方法】 ① 習得した知識や技能を統合し、自主的な問題発見と問題解決思考能力を培うための学習を奨励する。 ② 主体的・能動的な学修（アクティブ・ラーニング）を促す教育方法を実施し、学生にe-ポートフォリオを活用した「振り返り」を奨励する。 ③ 歯学教育モデル・コア・カリキュラムに基づき、必須の実践的能力（知識・技能・態度）の確実な修得を促進する。 ④ コミュニケーションサポートシステム（CSS）体制、チューター制を活用して、学生が自発的に学修できる環境の充実に努めるとともに、学生が十分な学修時間を確保するように推奨する。 【教育評価】 到達目標に応じた学修成果を多面的に評価する。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission2023_01.pdf）
（概要） 歯学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学HP及び入試要項に掲載している。 ○歯学部歯学科 歯学部は、優れた人材を公平かつ多様な方法で選抜するという方針に基づき、卒業認定・学位授与の方針（DP）及び教育課程編成・実施の方針（CP）に定める教育を受けるのにふさわしい、以下に掲げるような人の入学を求めています。 ① 人としての基本的モラルを身につけている人。 ② 感謝と思いやりの精神を持っている人。 ③ 歯学教育を受けるために必要とされる十分な理系の基礎学力を持っている人。 ④ 論理的思考に優れ、豊かな自己学習能力を涵養しようとする人。 ⑤ 医療人としての強い使命感と高い志を持ち、社会に貢献することを希望する人。 ⑥ グローバルな視野と主体性を持ち、協働して歯科保健・医療を実践しようとする人。
学部等名 薬学部医療薬学科
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf）
（概要） 薬学部において策定した教育研究上の目的を大学HP及び履修要項に掲載している。 ○薬学部医療薬学科 薬学部は、本学の建学の精神である「行学一体・報恩感謝」に基づき、医療人としての豊かな人間性と高い倫理観を備え、薬学の科学的基礎に立脚した医薬品に関する包括的知識を持ち、疾病に対する適切な医薬品の選択や適正使用、さらには正確な医薬品情報の提供及び服薬指導などの高度で幅広い職能を有する、患者を中心にした高度先端医療及び地域医療に貢献できる人材の養成を目的としています。 そのために生命の尊厳について深い認識を持ち、医療を協働の場として人々の健康維持と医療の発展に積極的に貢献し、共創を通じて未来を開拓する研究心を持った医療薬学専門人を養成することを教育研究上の目的としています。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma2023_01.pdf）

(概要) 薬学部において策定したディプロマ・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○薬学部医療薬学科 本学科所定（6 年）以上の期間在学し、薬学部医療薬学科の教育理念・目標に沿って設定された授業科目を履修して、次のような能力を身につけた上で、所定の単位（186 単位以上）を修得した学生に対して卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与します。習得すべき授業科目には、講義、実習および演習が含まれます。 ① 人々の健康維持と医療の発展に携わる者として求められる教養、倫理観とコミュニケーション能力を 身に付けていること。 ② 薬学分野における基礎的・専門的知識ならびに技能と態度を修得していること。 ③ 自己研鑽能力とともに、科学的思考力・実践能力・問題解決能力を身に付けていること。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum2023_01.pdf）
(概要) 薬学部において策定したカリキュラム・ポリシーを大学 HP 及び履修要項に掲載している。 ○薬学部医療薬学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得するために、講義、実習、演習において薬学の知識・技能・態度を身につけると共に、卒業研究では、科学的分析力と論理的思考能力を涵養します。さらに、臨床の現場で求められる臨床薬学の知識やコミュニケーション技術の修得を通じ、多様な問題を自ら解決できる能力、薬剤師に必要な学識及びその応用能力並びに医療人としての倫理観と使命感を養成する体系的なカリキュラムが編成されています。 1. 医療人としての幅広い教養を身につけるために、人文社会系、語学系の教養教育科目を学びます。その後、専門教育科目、実習、演習を通じて、臨床の現場で求められるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、及び、医療人として求められる倫理観を修得するための教育を行います。 2. 薬学分野における基礎的・専門的知識、技能、態度を修得するために、基礎系、衛生系、医療系、臨床系科目の講義を行うとともに、実習、演習を通じて問題発見・解決能力を養成します。また、薬学臨床教育として、学内での事前学習で修得した体系的な能力を、学外実務実習で患者・生活者を対象に活用することにより、実際の臨床現場で必要な対応能力を養成します。 3. 科学的思考力、実践能力、問題解決能力、自己研鑽能力を修得するために、発展系科目を中心に基礎的知識と専門的知識を統合させる教育を行います。さらに 4－6 年次には、全学生が各講座に所属し、卒業研究を通じて、多様な問題を自ら解決できる能力の涵養を図ります。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/admission2023_01.pdf）
(概要) 薬学部において策定したアドミッション・ポリシーを大学 HP 及び入試要項に掲載している。 ○薬学部医療薬学科 医療人としての倫理観と使命感をもとに、生涯を通じて自己研鑽に励み、チームの一員として積極的に医療に貢献し、生命科学の進歩や発展を通じて人間の幸福を追求できる高い志をもつ学生を求めています。 高校 3 年間に於いて、理科系科目（化学、生物学、物理学）および数学を勉学し優秀な成績を修めると共に、語学（国語、英語）についても十分に修学し、論理的な思考ができ、主体的に勉学に努めることができる学生を希望します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.agu.ac.jp/guide/org/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3 人	—					人
文学部	—	29 人	12 人	6 人	人	人	47 人
商学部	—	10 人	5 人	2 人	人	人	17 人
経営学部	—	10 人	2 人	4 人	人	人	16 人
経済学部	—	12 人	3 人	3 人	人	人	18 人
法学部	—	14 人	8 人	1 人	人	人	23 人
総合政策学部	—	9 人	6 人	2 人	人	人	17 人
健康科学部	—	18 人	7 人	3 人	1 人	7 人	36 人
心理学部	—	13 人	2 人	2 人	1 人	6 人	24 人
歯学部	—	23 人	28 人	61 人	21 人	人	133 人
薬学部	—	15 人	10 人	15 人	6 人	4 人	50 人
教養部	—	24 人	20 人	15 人	人	人	59 人
大学院	—	5 人	人	人	人	人	5 人
その他	—	4 人	人	2 人	1 人	人	7 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		890 人					890 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：https://aris.agu.ac.jp/aiguhp/KgApp					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
学内に教育開発研究センター規程に基づく委員会を設置し、教育・研究・社会貢献の総合的発展のための FD 活動及び全学 FD 活動について、全学及び各学部において審議実施するとともに、大学教育について学生との意見交換を行い、教育の質向上など改善に努めている。また、現状抱える課題解決に向けた取り組みも行っている。 年度末には各学部や各事業担当より報告された諸活動を取りまとめた「全学 FD 活動報告書」を作成、発行し、大学ポータルサイトでも公表している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	530 人	574 人	108.3%	2,145 人	2,173 人	101.3%	10 人	3 人
商学部	250 人	288 人	115.2%	1,005 人	1,068 人	106.3%	2 人	1 人
経営学部	290 人	318 人	109.7%	1,165 人	1,237 人	106.2%	2 人	1 人
経済学部	250 人	274 人	109.6%	1,005 人	1,063 人	105.8%	2 人	1 人
法学部	295 人	345 人	116.9%	1,190 人	1,286 人	108.1%	4 人	1 人
総合政策学部	210 人	229 人	109.0%	845 人	883 人	104.5%	2 人	0 人
心身科学部	0 人	0 人	0%	1,069 人	1,121 人	104.9%	3 人	0 人
健康科学部	260 人	271 人	104.2%	260 人	271 人	104.2%	0 人	0 人
心理学部	160 人	165 人	103.1%	321 人	343 人	106.9%	1 人	0 人
歯学部	125 人	104 人	83.2%	750 人	696 人	92.8%	若干名	0 人
薬学部	145 人	154 人	106.2%	870 人	881 人	101.3%	若干名	0 人
合計	2,515 人	2,722 人	108.2%	10,625 人	11,022 人	103.7%	26 人	7 人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	547 人 (100%)	14 人 (2.6%)	477 人 (87.2%)	56 人 (10.2%)
商学部	236 人 (100%)	1 人 (0.4%)	226 人 (95.8%)	9 人 (3.8%)
経営学部	296 人 (100%)	0 人 (0%)	275 人 (92.9%)	21 人 (7.1%)
経済学部	269 人 (100%)	3 人 (1.1%)	255 人 (94.8%)	11 人 (4.1%)
法学部	295 人 (100%)	1 人 (0.3%)	269 人 (91.2%)	25 人 (8.5%)
総合政策学部	198 人 (100%)	0 人 (0%)	181 人 (91.4%)	17 人 (8.6%)
心身科学部	393 人 (100%)	14 人 (3.6%)	338 人 (86.0%)	41 人 (10.4%)
健康科学部	0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
心理学部	0 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
歯学部	116 人 (100%)	0 人 (0%)	62 人 (53.4%)	54 人 (46.6%)
薬学部	127 人 (100%)	5 人 (3.9%)	86 人 (67.7%)	36 人 (28.3%)
合計	2,477 人 (100%)	38 人 (1.5%)	2,169 人 (87.6%)	270 人 (10.9%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 名古屋国税局、津地方法務局、防衛省自衛隊、岐阜県庁、名古屋市役所、岐阜市役所、名古屋市消防局、警視庁、愛知県警察本部、岐阜県警察本部、リゾートトラスト(株)、日本郵便(株)、(株)マキタ、愛知機械工業(株)、ヤマハ発動機(株)、アイホン(株)、山崎製パン(株)、日東工業(株)、イビデン(株)、(株)愛知銀行、(株)名古屋銀行、大和ハウス工業(株)、(株)熊谷組、(株)大塚商会、センコー(株)、名古屋鉄道(株)、東海旅客鉄道(株) (備考) 心理学部心理学科は 2022 年度開設。 健康科学部は 2023 年度に心身科学部から名称変更。

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業計画において、科目ごとの授業の到達目標を示すとともに、試験実施方法及び評価方法・基準について明示している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 「愛知学院大学の単位認定及び成績評価に関するガイドライン」を策定し、単位数と学習時間、試験の形態、学則第 9 条に定める成績評価基準等を GPA 制度の活用方法などと共に明記している。				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	宗教文化学科	128 単位	有・無	44 単位
	歴史学科	128 単位	有・無	44 単位
	英語英米文化学科	128 単位	有・無	44 単位
	日本文化学科	128 単位	有・無	44 単位
	グローバル英語学科	128 単位	有・無	44 単位
商学部	商学科	128 単位	有・無	44 単位
経営学部	経営学科	128 単位	有・無	44 単位
経済学部	経済学科	128 単位	有・無	44 単位

法学部	法律学科	128 単位	有・無	44 単位
	現代社会法学科	128 単位	有・無	44 単位
総合政策学部	総合政策学科	128 単位	有・無	44 単位
心身科学部	心理学科	128 単位	有・無	44 単位
	健康科学科	128 単位	有・無	48 単位
	健康栄養学科	128 単位	有・無	48 単位
健康科学部	健康科学科	128 単位	有・無	48 単位
	健康栄養学科	128 単位	有・無	48 単位
心理学部	心理学科	128 単位	有・無	44 単位
歯学部	歯学科	220 単位	有・無	単位
薬学部	医療薬学科	186 単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：https://www.agu.ac.jp/life/rules/gpa2.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：https://www.agu.ac.jp/guide/data/student.html		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.agu.ac.jp/guide/data/education.html （詳細） ○キャンパス案内 https://www.agu.ac.jp/guide/campus/ ○運動施設 https://www.agu.ac.jp/life/facilities/ ○課外活動の状況および施設 https://www.agu.ac.jp/life/club/ ○休息を行う環境・その他の学習環境 https://www.agu.ac.jp/life/facilities/#cafeteria https://www.agu.ac.jp/organ/library/ ○主な交通手段 https://www.agu.ac.jp/access/
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	宗教文化学科	670,000 円	240,000 円	370,000 円	教育充実費
	歴史学科				
	英語英米文化学科				
	日本文化学科				
	グローバル英語学科				
商学部	商学科	640,000 円	240,000 円	370,000 円	
経営学部	経営学科				
経済学部	経済学科				
法学部	法律学科				
	現代社会法学科				
総合政策学部	総合政策学科	690,000 円	240,000 円	370,000 円	

心身科学部	心理学科	690,000 円	—	370,000 円	※心身科学部心理学科は 2022 年度より募集停止 ※心身科学部健康科学科・ 健康栄養学科は 2023 年度 に健康科学部へ名称変更 教育充実費
	健康科学科	690,000 円	—	390,000 円	
	健康栄養学科	710,000 円	—	450,000 円	
健康科学部	健康科学科	690,000 円	240,000 円	440,000 円	施設設備資金（1 年次春 学期のみ） 教育充実費
	健康栄養学科	710,000 円	240,000 円	500,000 円	
心理学部	心理学科	690,000 円	240,000 円	420,000 円	施設設備資金（1 年次春 学期のみ） 教育充実費
歯学部	歯学科	3,700,000 円	600,000 円	1,300,000 円	歯学教育充実費
薬学部	医療薬学科	1,400,000 円	200,000 円	700,000 円	施設設備資金 教育充実費

- 注1) 文学部、商学部、経営学部、経済学部、法学部、総合政策学部、健康科学部、心理学部、心身科学部の授業料、教育充実費は学年進行に伴い各1万円ずつ増額。
- 注2) 薬学部の授業料は2年次と5年次で10万円ずつ増額。
- 注3) グローバル英語学科では「Study Abroad」（海外語学研修）の費用として、授業料とは別に約60万円を別途徴収。
- 注4) 歴史学科考古学コースを選択した場合は、実習費として2年次に25,000円、3年次に25,000円、4年次に10,000円を別途徴収。
- 注5) 心理学部心理学科・心身科学部心理学科：公認心理師コースを履修する場合は実習費として3年次に50,000円、4年次に50,000円を別途徴収。
- 注6) 健康科学部健康科学科・心身科学部健康科学科：養護教諭コース・スポーツ科学コースを選択した場合は実習費として2年次以降毎年30,000円を別途徴収。言語聴覚士コースを選択した場合は実習費として2年次以降毎年50,000円を別途徴収。また、3年次に60,000円、4年次に90,000円の病院実習費を別途徴収。
- 注7) 健康科学部健康栄養学科・心身科学部健康栄養学科：実習費3年次36,000円、4年次12,000円を別途徴収。
また、国家試験対策アプリ使用費1年次20,000円を別途徴収。
- 注8) 歯学部は、別途実験実習費約160万円（1年10万円、2～5年35万円、6年10万円を各学年で別途徴収）及び歯学部共済会費70万円は1年次に別途徴収。
- 注9) 休学中の在籍料は半年間5万円を徴収。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ①大学独自の奨学金制度を設けている。 ②学習計画につき、オフィスアワー及びメールアドレスなど連絡手段を明記し学生からの個別相談に応じる体制を整えている。 ③新入生を対象に、春学期の授業開始前に履修相談会を開催している。 ④LA 制度の一環として、学部教育の方針に沿って学部が運営する学習支援等のカテゴリーを設け、申請のあった学部について活動を認めている。 ⑤障がいを持つ学生に対し、点字ブロックや自動ドア、エレベーターの整備を進めている。 ⑥配慮が必要な学生に対し、定期試験等において別室試験室で受験できるようにしている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ①学生の相談窓口は、各学部専属の相談職員を配置する学部担当制を導入している。同じ担当者が対応することで学生に寄り添った支援が可能になる。学部担当者は教員からの依頼を受け学部特有（専門職など）の就職支援も実施。インターンシップ、障がい者、UIターン就職、公務員、アスリート、留学生などの支援にも担当者を配し、学生の目的や属性に応じた支援を実施している。コロナ禍以降、オンラインや電話による相談についても実施し、学生の利用が定着した。 ②大学3年生を対象とした就職ガイダンスは年間を通し第5回まで行い、それぞれの回で必要な情報をタイムリーに提供している。春学期には就職活動全般の説明やインターンシップ概要、秋学期には自己分析、自己PR、業界・企業研究の概要を説明すると同時に、これら各種講座を開講しているので、目的に応じた就職対策支援講座への誘導をおこなっている。 ③学内において学生と採用企業・団体との接点となる、業界企業研究セミナー、学内合同企業セミナー、学内単独企業説明会を実施。その他、学外団体による求人紹介会やUIターン就職を目的としたイベントもキャリアセンター主管で実施している。 ④エクステンションセンターでは、国家・公的資格の取得、公務員試験、就職活動、自己啓発の各種支援講座を開講。入学時のオリエンテーションを初め、全講座講師を一堂に会した講座の合同説明会および個別説明会を開催し学生に周知。低学年からの就職準備の意識付けを推進している。 ⑤大学2・3年生を主体としたインターンシップ支援を実施。インターンシップ参加希望者を対象とした事前研修では履歴書作成、志望動機作成、マナー研修等を実施。単位認定については、事前研修及び5日間以上の実地研修さらに事後研修（報告会）を修了した者を認定している。なお、コロナ禍による状況変化につき対面実施のみならず、オンライン実施、ハイブリッド実施のインターンシップについても認めている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) ①健康診断の実施 毎年3月末～4月に健康診断を実施している。健康診断は、全ての学生が受診することとしており、都合により健康診断実施日に受診できなかった学生は、他の医療機関において受診するよう指導している。異常等が見つかった場合は、再検査や面談を実施し、必要に応じて他の医療機関に紹介等をしている。 ②健康管理 保健センターを設置し、本学の専任教員である医師をセンター所長とし、看護師を配置し、学生の健康管理の他、健康相談や保健指導、緊急時の応急処置を行っている。また、風邪などの一般診療だけでなく、歯科診療や女子学生を対象とした女性健康相談・心のサポートを行う精神健康相談も応じている。 ③学生相談 学生相談センターを設置し、専門の相談員（臨床心理士）を配置し、学生生活や対人関係等の悩み相談に応じている。 ④健康増進 日進キャンパスのスポーツセンターには室内プールやトレーニング室があり、学生の健康意識の向上と体力増進を促進している。また、より多くの学生が利用してもらえるよう、様々なイベントを開催している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.agu.ac.jp/guide/data/education.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F123310106540
学校名	愛知学院大学
設置者名	学校法人愛知学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		775人	768人	－
内 訳	第Ⅰ区分	449人	465人	
	第Ⅱ区分	218人	204人	
	第Ⅲ区分	108人	99人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				858人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	12人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—		
「警告」の区分に連続して該当	27人		
計	40人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	—		
G P A等が下位4分の1	90人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—		
計	90人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。